近世絵図地図資料集成　第Ⅰ期

The Collected Materials of Maps and Pcitures Produced
in Yedo Era ----First Series

近世絵図地図資料研究会編　本田　　豊　解説

（第 12 巻）　對馬・壹岐・肥前・長崎

［12th Volume : Tsushima, Iki, Hizen and Nagasaki ］

一覧表・目次
（List and Contents）

株式会社科学書院
(Kagaku Shoin Intelligence Industry Inc.)
http://www.kagakushoin.com

長崎ヶ諸國江海陸道規

大坂	陸百九十七里	船二百三十五里
京都	陸弐百十里	船二百四十八里
江戸	陸三百三十二里	船四百七十里余
長門下関	陸五十九里半四丁	船八十九里
豊前小倉	陸五十七里	船八十六里半
同中津	陸五十六里十三丁	船百三里六丁
安芸廣島	陸百三里三十六丁	船百四十四里半
筑前福岡	陸五十里半七丁	船六十八里半
筑後久留米	陸三十二里	船六十一里
同柳川	陸二十七里	船五十五里
肥前佐賀	陸二十四里四丁	船五十九里八丁
同平戸	陸二十五里	船二十七里
同唐津	陸二十五里十三丁	船五十二里半
同嶋原	陸十六里	船二十五里半
同大村	陸十里	船二十九里
肥後熊本	陸二十五里	船四十六里

内容見本［肥前國長崎之圖］（国立国会図書館所蔵）

[読者の皆様へ]

(1) 体裁及び内容 ---- 全 12 巻、各巻本体価格 250,000 円、揃本体価格 3,000,000 円。限定 100 セット。内容構成と発行予定は、以下の通りです。

[第 I 期・全 12 巻の内容構成]

＊［第 I 巻］千島・樺太・蝦夷 (1)（1996 年 6 月刊行）［第 1 回配本］

＊［第 II 巻］千島・樺太・蝦夷 (2)（2001 年 5 月刊行）［第 6 回配本］

＊［第 III 巻］江戸（1997 年 4 月刊行）［第 2 回配本］

＊［第 IV 巻］蝦夷（2002 年 5 月刊行）［第 7 回配本］

＊［第 V 巻］尾張 (1)（1999 年 5 月刊行）［第 4 回配本］

＊［第 VI 巻］尾張 (2)・三河（2000 年 5 月刊行）［第 5 回配本］

＊［第 VII 巻］大坂・堺・摂津・河内・和泉（1998 年 5 月刊行）［第 3 回配本］

※［第 VIII 巻］山城・京都（2004 年 5 月刊行予定）［第 9 回配本］

※［第 IX 巻］加賀（1)・能登（2005 年 5 月刊行予定）［第 10 回配本］

※［第 X 巻］加賀（2)（2006 年 5 月刊行予定）［第 11 回配本］

※［第 XI 巻］越中（2007 年 5 月刊行予定）［第 12 回配本］

＊［第 XII 巻］對馬・壹岐・肥前・長崎（2003 年 5 月刊行）［第 8 回配本］

[内容構成に変更がある時は、ご了承下さい]

(2) この『近世絵図地図資料集成・第 I 期』第 XII 巻は、119 項目、330 枚で構成されています。1 項目につきひとつの番号が与えられています。{例} XII-013-001 [02728]。この XII は巻数、013 は項目番号、001 は、この項目を構成する枝番号、02728 は、用紙の番号でもあり、ページを意味しています。

(3) この『近世絵図地図資料集成・第 I 期』第 XII 巻は、A2 版の袋 4 個の中に、全部の地図が収められています。各袋の内容は、以下のとおりです。

一覧表（A）[20 項目、88 枚、A2 版]

XII-001 [02685 ～ 02690], XII-002 [02691], XII-003 [02692], XII-004 [02693], XII-005 [02694], XII-006 [02695 ～ 02701], XII-007 [02702 ～ 02704], XII-008 [02705 ～ 02706], XII-009 [02707 ～ 02708], XII-010-001 [02709 ～ 02710], XII-011 [02711], XII-012 [02712 ～ 02727], XII-013 [02728 ～ 02729],XII-014 [02730 ～ 02747], XII-015 [02748], XII-016 [02749 ～ 02750], XII-017 [02751], XII-018 [02752 ～ 02762], XII-019 [02763], XII-020 [02764 ～ 02772]

一覧表（B）[10 項目、83 枚、A2 版]

XII-021 [02773 ～ 02784], XII-022 [02785 ～ 02795], XII-023 [02796 ～ 02805],XII-024 [02806 ～ 02807], XII-025 [02808 ～ 02811], XII-026 [02812 ～ 02814],XII-027 [02815 ～ 02851], XII-028 [02852], XII-029 [02853], XII-030 [02854 ～ 02855]

一覧表（C）[38 項目、82 枚、A2 版]

XII-031 [02856], XII-032 [02857], XII-033 [02858 ～ 02859], XII-034 [02860],XII-035 [02861], XII-036 [02862], XII-037 [02863], XII-038 [02864 ～ 02865],XII-039 [02866], XII-040 [02867],

XII-041 [02868～02869]，XII-042 [02870]，XII-043 [02871]，XII-044 [02872～02873]，XII-045 [02874]，XII-046 [02875]，XII-047 [02876]，XII-048 [02877]，XII-049 [02878]，XII-050 [02879～02880]，XII-051 [02881]，XII-052 [02882～02884]，XII-053 [02885～02887]，XII-054 [02888]，XII-055 [02889]，XII-056 [02890]，XII-057 [02891～02896]，XII-058 [02897～02912]，XII-059 [02913～02922]，XII-060 [02923～02924]，XII-061 [02925]，XII-062 [02926]，XII-063 [02927]，XII-064 [02928]，XII-065 [02929～02930]，XII-066 [02931～02933]，XII-067 [02934～02935]，XII-068 [02936～02937]

一覧表（D）[51 項目、77 枚、A2 版]

XII-069 [02938]，XII-070 [02939]，XII-071 [02940]，XII-072 [02941]，XII-072 [02941]，XII-073-001 [02942～]，XII-073-002 [02943]，XII-074 [02944～02945]，XII-075 [02946]，XII-076 [02947]，XII-077 [02948]，XII-078 [02949～02950]，XII-079 [02951]，XII-080 [02952]，XII-081 [02953]，XII-082 [02954]，XII-083 [02955],XII-084 [02956]，XII-085 [02957～02959]，XII-086 [02960～02962]，XII-087 [02963～02965]，XII-088 [02966～02969]，XII-089 [02970]，XII-090 [02971～02974]，XII-091 [02975]，XII-092 [02976～02977]，XII-093 [02978]，XII-094 [02979]，XII-095 [02980]，XII-096 [02981]，XII-097 [02982～02983]，XII-098 [02984～02987]，XII-099 [02988]，XII-100 [02989]，XII-101 [02990]，XII-102 [02991]，XII-103 [02992]，XII-104 [02993]，XII-105 [02994]，XII-106 [02995]，XII-107 [02996]，XII-108 [02997]，XII-109 [02998]，XII-110 [02999～03000]，XII-111 [03001]，XII-112 [03002～03003]，XII-113 [03004～03005]，XII-114 [03006]，XII-115 [03007～03008]，XII-116 [03009～03011]，XII-117 [03012]，XII-118 [03013]，XII-119 [03014]

(4) 読者の便を考えて、線と文字を出すことに留意し、地図は拡大したものもあります。

(5) 仕上がりのサイズは、A2 版（455㎜ x 625㎜--- 版面は 355㎜ x 500㎜）で、袋に収納し、それらをケースに入れました。

(6) 配列は、右から左、そして、上から下を原則としました。例外のものもあることを、ご考慮下さい。

(7) リストの整理番号のアルファベット記号が所蔵機関を表示した略称です。

C：国立公文書館、N：長崎県立長崎図書館、NC：長崎市立博物館、NDL：国立国会図書館

(8) 被差別部落、地名及び人名の俗称などに関しましては、本田豊先生（東京人権歴史資料館）のご校閲を仰ぎ、学術的な一次資料という観点から処置致しました。

(9) 表題は内題を使用した。ただ、内題がないものは、題箋に書かれている名称を採用した。[] で括られた表題は、原圖に記載がないために、後世に記載したものである。

(10) これらの地圖群の製作年代については特定できるものが少なくなく、明治以降に製作されたと推定される資料も掲載した。「近世絵圖地圖資料集成」の表題にそぐわない面もあるが、明治初期までは、江戸時代の遺制がまだ残存していて、道路、土地、建物などの大幅な変更はなく、江戸時代から明治時代への変遷を確認するための貴重な資料であると判断して、あえて掲載した次第である。明治 4 年の廃藩置県、明治 6 年の地祖改正条例公布以降に製作された地圖が多いと推定される。

(11) この『近世絵図地図資料集成・第Ⅰ期』第 XII 巻の刊行に際しましては、国立公文書館、長崎県立長崎図書館、長崎市立博物館、国立国会図書館の許可のもとに刊行することになりました。関係各位のご厚情に深く感謝致します。

近世絵図地図資料集成／肥前・長崎編についての考察

本　田　　豊

1、はじめに

近世の肥前国長崎を中心にした絵図地図集をお届けする。近世の長崎に関する絵図地図は、他の都市に比較しても、それほど少ないとは言えない。本絵図地図集は、近世から近代に至る長崎を中心とした景観や発展の足跡を辿る資料として、貴重な素材を提供する、と考える。様々な方面での活用をお願いしたい。

長崎に関する絵図地図が大量に書かれた背景は、近世の長崎が鎖国体制下において、海外に開かれた唯一の窓口だったからである、と考えられる。

三大話めいた記述になるが、近世の長崎といえば出島・丸山遊廓・大浦天主堂に代表されようか。これに近代以降には三菱造船所、グラバー邸が加わるが、これらはいずれも長崎という都市の性格をよく象徴している、といえよう。祭りでは、中国情緒豊かな長崎くんちが大変に有名である。最近では、ハウステンボスがこれに加わる。近世長崎においては、出島のオランダ人の影に隠れるかたちになっているが、中国人もたくさん住んでいたが、長崎くんちはその影響が残る祭りである。

長崎における中国人の来航は、かなり古い時代からのことらしい。たとえば、興福寺という寺があるが、この寺は 1620（元和 6）年に唐僧真円が、長崎在留の唐人達の援助によって、寺町の一角に一寺を建立したのが始まり、といわれる。長崎では、町の東側一帯が寺町となっている。本絵図地図集にも書き込まれてあり、はっきり読み取れる。

唐寺と呼ばれる寺は、興福寺以外にもあり、そのひとつが福済寺である。福済寺は 1628（寛永 5）年、長崎に来航してきた唐人達によって、建立された寺である。この寺には雄大な山門や、1655（明歴元）年に創建された大雄宝殿などがあつたが、いずれも 1945（昭和 20）年の原爆によって焼失した。

もうひとつ、長崎にとって忘れてならないのは崇福寺である。崇福寺には龍宮門といわれる山門があるが、この門をはじめ崇福寺のすべての建物は、原爆被爆後に修理復元されて、現在は国宝や重要文化財に指定されている建物ばかりである。創建年代は、大雄宝殿が 1646（正保 3）年に建てられているから、少なくともそれ以前であることは間違いない。

この崇福寺の二代住職の時の 1681（天和元）年、長崎は大飢饉に見舞われるのだがこの時に住職は、四石二斗の米を一時に炊くことができる大釜を作り、飢饉に苦しむ人々に対して炊き出しを行った。釜では、一度に 3000 人分のお粥がつくれたといわれる。一石が 2 俵だから、8 俵と 2／1 俵を一度に炊いたわけである。大変な量である。

この他に有名な唐寺としては、聖福寺がある。聖福寺は他の唐寺とは異なり、中国人の父親と日本人の母親との間に生まれた住職が、1677（延宝 5）年に創建したものである。この寺の鐘は、幕末の外国船襲来のときに、警報としてつかれたことがある。

歌舞伎の「国姓爺合戦」には「和籐内」が登場する。何故に和藤内というかといえば、中国人と日本人の混血で、和（日本人）でも唐（中国人）でもない、というシャレから来ている。当時から、国を越えた結婚の事例はかなり多かったとみられる。

2、鎖国と長崎

高校日本史教科書では、江戸時代のオランダやイギリスなどのヨーロッパの国や、キリスト教については詳しく触れているが、戦後処理などの微妙な問題を抱える中国や朝鮮の記述は、意外とあっさりとしている感がある。

例えば 1995（平成 7）年度用の高校日本史教科書のひとつは、近世の長崎に関して次のように触れている。やや長いが引用する。

「『鎖国と禁教』（徳川）家康は初期には貿易を奨励し、キリスト教の布教を認めていたが、貿易と布教を結合させない新教国のオランダ・イギリスが平戸に商館を設置すると、キリスト教を禁止するようになった。1612（慶長 17）年、幕府直轄地での禁教令を出し、翌年には全国に適用して、宣教師を追放し、江戸・京都をはじめとして教会を破壊し、信者を摘発して転宗を迫った。

1616（元和 2）年、禁教の強化を命じ、中国船を除く外国船の寄港地を平戸と長崎に限定し、1624（寛永元）年にはスペイン船の来航を禁じた。朱印船貿易の統制も強め、1631 年、朱印状以外に老中の奉書を必要とする奉書船制度をはじめ、中国船・オランダ船にも糸割符制度を適用した。

1633 年にはじめて鎖国令を出し、奉書船以外の日本人の海外渡航と海外在住日本人の帰国を禁止し、違反者は死罪とし、キリシタン取り締まり、貿易統制の強化も命じた。1635 年には外国船の入港を長崎に限り、奉書船も禁止して、日本人の海外渡航の道は絶たれた。さらに、1636 年、長崎に出島を築き、ポルトガル人を住まわせた。

こうして日本は、大航海時代の世界へ広げていた窓口を長崎・対馬・琉球・蝦夷地の 4 か所に限定し、オランダ・中国・朝鮮とだけ幕府の統制のもとに貿易を行うこととなった 1637 年、肥前国島原と肥後国天草の領民が、領主松倉勝家、寺沢堅高に対して島原・天草一揆をおこした。この一揆で島原・天草地方が荒廃したので、幕府は各地から農民を移入して復興をはかった。また、以後、禁教を徹底させ、1639 年、ポルトガル船の来航を禁じ、1641（寛永 18）年にはオランダ商館を平戸から出島に移し、鎖国体制を完成させた。

『鎖国の影響』　鎖国後、キリスト教禁教を徹底するため、九州地方では聖遺物を踏ませて、信者摘発と転宗のあかしとする絵踏を実施した。また、幕府に宗門改役を設けて、宗門改めと寺請檀家制をはじめ、宗門改帳（宗門人別帳）を全国で作成させた。しかし、九州地方をはじめ、全国でひそかに信仰を守った隠れキリシタンも少なからずいた。

鎖国体制のなか、オランダ商館長は毎年江戸に参府して将軍に面会し、『オランダ風雪書』を提出して、幕府へ貴重な海外情報を提供した」（『詳解日本史Ｂ　清水書院、168Ｐ－170Ｐ）。この辺の記述は、後に触れる部落問題との関わりにとっても重要なので、あえて引用した。

この引用にもあるように、鎖国体制と言ってもそれはすぐに完成したものではなく、かなり長い時間がかかっていたことなのであった。そして、出島がわざわざ作られて、外国人はそこへ押し込められた様子も簡潔に記述されている。本絵図地図集は、こうした長崎港の様子が詳しいのである。しかし、出島にはオランダ人が押し込められたとあるが、教科書には、中国人は「唐人屋舗」に囲い込まれたとの記述はない。唐人屋舗は海と山に囲まれた地域にあったことが絵図地図に見えている。

「肥前国長崎之図」を見ると、「唐人屋舗」の隣には、「遠見番人」と「唐人番人」の

屋敷が書き込まれている。遠見番人は港の監視であろうし、唐人番人はその名前の通り、唐人の監視にあたっていたとみて間違いない。その番人の屋敷は、小屋程度の建物ではなくて、かなり大きかった様子もわかる。唐人番人と唐人屋舗の間には、十善寺村が記載されているが、この村は唐人監視のための村だったのであろう。日常は百姓か漁師をしながら、それとなく唐人の監視を行っていた、とみてよい。近世には、地域における危険分子や不満分子を監視している人達があちこちに存在した。その一部の人々や地域が、現在「同和地区」とか被差別部落と呼ばれているのである。しかし、お断りしておくが、この十善寺村が同和地区というわけではない。念の為。

その唐人屋舗の海側の所には、「唐人荷物入」との記載がある島が描かれている。出島の半分ほどのこの島は、やはり人工的に作られたようである。「新蔵地」との書き込みもあるから、盗みなどを警戒して海に作られた島と考えられる。その島にもかなり大きな建物があった様子が、絵図地図から伝わってくる。

こうした建物があったのであるから、中国人の往来はかなり烈しい数だったのではないか。大陸から中国人や朝鮮人が渡来してきたのは、何も古代の一時期に限られていた訳ではなくて、鎖国の前後であってもかなりの数の人達が、長崎を中心にやつてきていたとみてよい。先にみたように、唐寺といわれる寺が長崎にはいくつも残っているのである。歌舞伎の「国姓爺合戦」は 1715（正徳 5）年、近松門左衛門が大坂・竹本座のために書いた浄瑠璃で、翌年に歌舞伎に移された。清に滅ぼされた明の再興にかけた実在の英雄をモデルにした時代物である。

こうした歌舞伎の演目が見るものに支持されたということは、唐人（中国人）や中国人と日本人との混血という人達も、かなり一般的だったのではないか。そうでなければ、竹本座で 17 ケ月ものロングランにはならなかつたであろう。大陸の人達との交流は、鎖国体制下にあっても意外と広範囲な交流がなされていたのではないか。お互いの国や言葉に対する知識や理解が一定程度にあった証拠である

3、長崎地図に関する考察

さて、本資料集成について各図の検討に入りたい。所載図の特徴を明らかにしたいためである。長崎は周知のように近世初期から港であった。また、長崎をふくむ肥前国は壱岐・対馬や五島列島など、いくつもの島々から成つているが、ここにはそうした島々の絵図地図も収録している。したがって、本資料集成は、近世の肥前国全域を網羅した内容となっている。また、所載図からは、そうした島々における村々の変遷もわかるはずである。

長崎に関する絵図地図の研究については、＜「初期長崎地図に関する書誌的考察」中村質『日本歴史』第 235 号　1967 年＞がある。中村論文は、『長崎県史』編纂の過程で接することができた長崎古地図について整理し、絵図地図の制作年次を明らかにしようとしたものである。

近世の絵図地図は、近代以降の現況図と違って、時間を無視してかなり長期間にわたる見取り図となっている図が多いから、絵図地図の題箋に「〇〇年作図」とあつても、必ずしもそれがそのまま当年の制作年次とは言い難い、という問題があるからである。とうの昔に移転してしまった寺や神社が、かなり後の絵図地図にそのまま記載されている、などということは、近世の絵図地図では珍しいことではない。あるいはその逆に、あるべきは

ずの町や建物が書き込まれていなかったりもするのである。

したがって、他の文献や誌・資料によって、ひとつひとつの絵図地図の制作年次を確認する作業は、地域史にとっては極めて重要な課題なのである。中村論文は、この点に挑戦したものである。

ところで、長崎は近代以降には歴史の荒波にもまれて、町や村の姿も大きく変わった所がいくつもある。長崎といえば 1945 年の原爆の被害をまず思い浮かべる人も多いであろう。戦艦武蔵が三菱長崎造船所で建造されたことに見られるように、近代の長崎は軍事都市としての一面も持っていた。明治以降にはロシア東洋艦隊が冬の間、長崎を避寒港として指定、毎年ロシア艦隊はウラジオストックより来航していた。そのために、稲左にはロシア人相手の巨大遊廓もできたほどである。

しかし、日露戦争が開始されると、長崎からロシア艦隊は撤退していく。すると、ロシア艦隊相手の商売は成立しなくなるから、町の構造にも変化が現れる。加えて、明治の中期以後になると、長崎の町の主要産業であった貿易が、横浜や神戸、門司といった新興の港湾都市にその座を奪われてしまった。すると、それまでは長崎に居住していた中国人も次第に長崎の町から去って、横浜や神戸などの都市へと移っていった。ヨーロッパから来日していた外国人も、次第に本国へと帰っていき、長崎からは外国人の姿が減っていくのであった。今日、横浜や神戸に大きな中華街があるのは、こうした明治以降の長崎の地位の低下と深い関係があるのである。

あまり知られていないが、長崎にはロシア革命の時に本国を脱出して、空き家が目立っていた大浦の外国人居留地の洋館へと移り住んだ人達がかなりいた。そのためにユダヤ人も多く、ユダヤ教会やロシア正教会もあったが、現在はすべて無くなっている。

このように長崎やその周辺は、近代以降も歴史の荒波にもまれて、町や村の姿が大きく変わった所が珍しくないのである。本資料集成は、そうした地域社会の変遷も絵図地図によって明らかにしたいと考え、敢えて一部については昭和期の物も収録した。近世からの変遷を一望できると考えるからである。

肥前国長崎は、大小様々な島をたくさん抱えている。そうした島々が、どのように領有されていたのか、を示したのが「五島領図」である。この図を見ると、島々がほとんど五島か平戸領のいずれかに領有されていた様子が一望できる。この図の前後には、五島列島に関する絵図地図を何枚か収録しているから、領有関係や港の盛衰もわかるのである。

島では忘れてならないのが「対馬」である。対馬に関しては、もう少し詳しく地名が書き込まれていると、朝鮮半島との比較も可能なのだが、本資料集成収録の絵図地図では、残念ながら見取り図しか収録していない。

「石田郡十一ケ村図」は、近代の地図であるが「触れ境」が記入されていたり、学校や郡役所も記載されている。「触れ境」の記入例は珍しいと見られる。また「北松浦郡各村図」を見ると、「川玉社」、「松山社」、「祝詞社」、「矢保佐社」などの神社が記載されている。こうした神社名も地域性を顕していて、地域研究には欠かせない。神社の分布は、その神を信仰していた人々の勢力範囲を示しているから、どのような集団が存在していたのかを探る、有力な手がかりとなる。

「南松浦郡村図十七か村分附女島男島之図」は近代の絵図地図であるが、港の発達する地域や人家が集中するのはどういう場所か、などがわかって興味深い。海が迫っている地

域では、特に少しの土地も貴重だから、人家は生活には少し不便でも高台へ作られる。土地利用に関しては地域性がある。この地図からはそうした土地利用の様子が読み取れる。

大区小区制の実施されていた様子がわかるのは、「三根郡村図」である。大区小区制が実施されていたのは、明治時代初期のほんの一時期であるから、この地図は大変に貴重である。大区小区制は、それまでの郡や村に代わる行政区画として実施されたのであるが、人々の暮らしの実情に合わず、すぐに有名無実となり廃止された制度である。「諫早図及付属書類」も明治初期にみられた「戸長役場」が記載されており、きわめて貴重な地図である。この地図には「明治 3 年」作図の記載がある。「肥後国天草明細図」にも戸長役場の記載がある。こちらは「明治 15 年」作図との記載がある。

島原については「島原郡村図」がある。「明治 13 年」作図とあるから、近世の島原の様子を伝えているとみてほぼ間違いないであろう。ここには「社人屋敷」、「御使者屋敷」などの書き込みがある。こうした記載をみると、島原の町の性格がわかってくるのである。また島原の町の詳細図も収録した。

島原といえば、1637（寛永 14）年に起きた「島原の乱」が有名である。先に日本史教科書を引用したが、鎖国とキリシタン禁教とは密接不可分の政策であり、同時平行して行われた。島原の乱後、キリシタン弾圧は全国各地で強められたが、天草や島原では「隠れキリシタン」としてさまざまな隠れの方法を採り、明治以降まで信仰を持ち続けた者が多かった。その隠れの方法は、各家ごとに違っていたといわれる。例えば正月飾りを一年中片付けないことが、隠れの方法であった場合もある。だから他人にはわからなかったのだ。しかし、その隠れの方法が全国で共通しているわけではない。地域によって、各家によって違っていたのであった。したがって、島原で、天草で隠れの証拠があつたからといって、それが全国に通用するとは限らない。逆に言うと、何でも「隠れの証拠」となってしまう、という危険性もある、といえるのである。隠れキリシタンの調査や研究は、慎重に進められる必要がある。牽強付会は厳に慎まねばならない。キリシタンと部落問題の関係については後述する。

4、長崎港と出島

近世の長崎は、そのほとんどが佐賀の鍋島氏の所領であった。現在の長崎県に属する肥前国西部地域は、松浦、大村、五島、松平等の小藩に分割支配されていた。肥前国・島原藩の松平氏は、近世になり当地へ移封されたものだが、他の諸侯は地方豪族として近世以前より当地で勢力があった。

特に松浦、五島二氏は島嶼に割拠して、海上を活躍の舞台とした。松浦氏は嵯峨源氏の出であるといい、八世公久の時に検非違使として肥前松浦御厨検校として当地へ下った。そして松浦を姓名として、元寇の役や南北朝の内乱の時にも、歴史に名を残した。その後平戸島や北松浦半島を中心にして周辺の島々を領有、壱岐一国も支配下に収めた。戦国時代には徴王を名乗り、当時の明国とさかんに貿易を行ったのだった。

歴史上に有名なフランシスコ・ザビエルを招いてキリスト教の布教を許し、25 代の隆信の時代には、家臣の主だった者たちを入信させてもいる。その見返として鉄砲や火薬の製法を教えてもらい、松浦氏は海外貿易で富を蓄えると共に、武器製造も怠らず、「富国強兵」の道を突き進み、半ば独立国の感さえ呈した。

しかし、キリスト教はまたたくまに松浦、五島の島々を席巻、在来の仏教徒との抗争が頻発したため、キリスト教徒の平戸追放という事態に至った。そのため南蛮船は平戸に入らず、大村領内の横瀬裏に入ることとなり、平戸の繁栄は大村領に移ることとなった。そして長崎港も開かれたから、南蛮船は長崎へ入るようになり、平戸の繁栄はすべて長崎へと移ったのだった。こうして近世の長崎の基礎が築かれたのである。

長崎は、天正時代に領主・長崎甚左衛門が軍資金に困り、オランダ人などから巨額の軍資金を借りたことがある。そのため長崎は、一時彼らの抵当地となりキリシタン領となつたことがある。その時に市内三か所に教会が建てられ、オランダ人は市民に積極的にキリスト教の布教を始めた。

これを九州統一のために博多にいた豊臣秀吉が聞き激怒。長崎を没収してキリスト教を禁止した。オランダ人達は、それまであった神社や寺を破壊して焼却、「天火」と称していた。秀吉の行為はその反動であった。徳川の世になるとすぐに、現在も残っている杉森神社、伊勢神宮、諏訪神社、八坂神社、稲荷神社などが創られ、長崎市民にキリスト教からの転宗を迫った。寺も次々と建立されて、キリスト教からの転宗を勧めた。

しかし、キリスト教を根絶することはできず、浦上では集団としてキリスト教を信仰、幕末には天主堂を建てたことは有名である。幕府としては、こうしたオランダ人を自由に市内を通行させないために、1634（寛永 11）年、市内の 25 人の豪商に出資させて長崎湾を埋め立て、出島を造った。そして平戸にいたオランダ人も、すべて出島へ収容したのであった。

出島へは、出島を造るときに出資した 25 人の商人以外は、誰も出入りできなかった。オランダ人も、年間に 3 回、原則として市中散歩が認められたが、それ意外には出島からは出られなかったのである。この出島から大浦にいたる間を「新地」という。本絵図地図集には、この出島の図は何枚も収録している。

こうして長崎の町は、寛文期（1661－－73 年）には町数 47、戸数 12000、人口 65000 を数えたという。当時としてはわが国のなかでも有数の都市であった。ここが、近世における世界との窓口となったことはよく知られている通りである。

「長崎諸官公衙図」は、出島や唐人屋敷、牢屋敷の詳細図である。これによると、出島は 3969 坪余、唐人屋敷は 9363 坪余、牢屋敷は 744 坪余であった。出島の 3969 坪というから 1 反＝300 坪、一町で 3000 坪と計算して、およそ一町 3 反歩余となる。中世の地方豪族の屋敷がだいたい一町歩であつたから、出島はそれらの豪族屋敷よりも、やや広いくらいであつた。方一町というと、一辺が 100 メートル四方と考えれば良い。図には出島は横に広がった扇形に描かれている。したがって横の長さの方が、奥行きよりも長かったのであった。

唐人屋敷は 9363 坪余というから、出島のおよそ三倍弱の広さであった。収録した絵図地図では、必ずしも唐人屋敷の方が大きくは描かれていないが、これは絵図地図制作技術上の問題である。それでもそれぞれの屋敷の位置関係はよくわかる。

牢屋式は、見取り図によると 744 坪余であった。他に 184 坪の溜まり牢が付属していた。744 坪というと現在の表記に従えば 25 アールほどの広さであるから、それほど広くはない。溜まり牢は囚人のうち、重病の者や重傷の囚人を一時的に収容して、治療などを行っていた所である。本絵図地図集には、詳細図を数点収録した。同様の施設は江戸の町では吉原

遊廓の南側に設けられていた。

ところで、九州には全国の石橋の 9 割以上が集中している。長崎県諫早市の「諫早眼鏡橋」は二連式の石橋としてよく知られている。その石橋を造った技術はどこから来たのだろうか。

これまでも少し触れてきたが、九州は中国と関係が深い。交流もかなり以前から盛んであった。当然、人や技術もいろいろと入ってきたと考えなくてはならない。石橋を造った技術は、室町期に中国大陸よりわが国へ渡ってきた人達によって、伝えられたといわれる。城や土手の石積みの技術、墓石などの石切りの技術は、中国人の伝えた技術であったらしい。そうした人達が、わが国へ入ってきてから自分達の出自を忘れないために、「藤」のつく名字を名乗った。「藤」は「唐」と同音である。「唐」からきた人であるから、「唐」と同音である「藤」のつく名字を名乗ったのである（石井進氏の研究による）。東日本におけるそうした石工集団のひとつの根拠地が、現在の長野県高遠町である。中国からきた石工であるからなのだろうが伊藤姓が多いのが、高遠の石工の特徴である。

九州に石橋が多いのは、そうした石工集団が、主に九州以外に出ていかなかった証拠とも見られるが、領主の側が技術の流出を止めていた、とも考えられないわけではない。

さて、近世の出島は 3869 坪余とかなり狭かった。しかし、出島や唐人屋敷へは「傾城の外女入る事」の禁札があった。ようするに一般の女性は出入りが出来なかったが、娼婦は出入りが自由だったらしい。

こんな資料がある「長崎に青餅、トーピー、羅紗めん、黒縮緬、よもや縮緬の語あり、此等の語意義異なり」とある（『長崎県紀要』）。これらはみな娼婦の別名である。つまりそういう別称がうまれるほどに、娼婦の数は多かったのである。娼婦は奥州の仙台周辺では「草餅」といい、鳥羽では「走り鐘」などと呼ばれていた。

絵図地図には、唐人屋敷の近くに「傾城丁」「丸山丁」が描かれている。ここの傾城が唐人屋敷や出島へ出入りしていたのは、前に触れた。「丸山の遊廓は漂客に吉原の張りを持たせて、島原の衣裳を着せ、丸山の揚屋で遊びたい」といわれた（同前）。ここに見られる様に、丸山遊廓は京都の島原、江戸の吉原と並び称されるほどであった。

丸山遊廓は、文禄年間（1592－－95 年）に博多の遊女屋である恵比寿屋が、自分の所の遊女数人を連れて娼家を創ったのに始まる（『花柳沿革史』）。そして、近世長崎の繁栄と共に九州第一の遊廓となったのであった。

丸山遊廓の西隣が寄合町であるが、この町は 1642（寛永 19）年に創られたといわれる。ここは丸山遊廓と共に、長崎遊廓の発祥地といわれている。この寄合町に「青餅屋」があった。丸山遊廓には石畳が敷かれていた。長崎の人々は、丸山遊廓の入口を「山の口」と呼んでいた。本絵図地図集にもこの「寄合町」は書き込まれている。

5、長崎の部落問題

長崎は、キリスト教徒の大反乱としての島原・天草の乱や、鎖国下の海外貿易の拠点としての出島などがあったから、幕府としては治安問題に腐心したことは疑いない。

部落問題は、長く近世幕藩体制下における「士農工商穢多非人」という身分制度に起因する、と説明されてきた。しかし、近世社会に「士農工商」という身分制度は存在しなかったことが、明らかにされている。士は武士のことで、これは身分だが、農工商は職業名

であって身分ではない。身分問題と職業名が混同されて説明されてきたのだが、なぜにこんな事態が生まれたのか。

それに、全国各地で「穢多非人」といわれていたかのごとくに説明されてきたが、こうした言葉が通用する地域は、実はそれほど多くはない。その点とも関係するが、一体に誰が「穢多」や「非人」とされたのか、実際にはほとんどわかっていない。大雑把なのを承知で分類すれば、西日本は「かわた」呼称、東日本は「長吏」呼称が近世社会でも一般的であつた。そして、近世でもかわた・長吏共に主な職業としては農業であったことは、各地での研究で明らかになっている。必ずしも「皮革」関係ではなかったのである。

長崎のとなりの熊本県では、1921 年調査によると「57 部落」、1935 年調査でも「45 部落」と記録されているが、天草地方を中心にして、かなり調査漏れの地域がある。それらの地域は、小戸数のうえに、かっての隠れキリシタンの類族が多く、調査が不可能なのである。熊本県の場合には、熊本城下や菊池郡に大きな戸数の部落が存在している。熊本は、島原・天草の大一揆にあたっては、討ち死に 318 人、手負いの負傷者 1996 人を数えたほか、戦功者の加増、戦功浪人の召し抱え、長崎湾警護などの出費で、財政負担が膨らみ続け、借金財政に陥ったのであった。島原・天草の大一揆は、全国の諸藩にも大なり小なり財政上の影響を与えた。

長崎の場合、1921 年調査では「23 部落」、1930 年 4 月現在の数字では「62 部落」と記録されている。しかし、その内訳をみてみると、長崎市や佐世保市、多比良村島原町や西有家町、対馬郡久田村などには、20 戸を越える大きな部落が存在するが、他の所はたいていが 10 戸以下である。

ひとつの部落が 10 戸を越える所は、長崎県下では 17 ケ所であった（1930 年調査）。あとの 7 割の部落は、10 戸以下の極めて小さな部落ばかりであったのだが、この点は、長崎の部落の社会的な性格を浮き彫りにする、と考える。1930 年調査では、県下の部落の職業は農業と記録されていて、生活程度も「中」の所が 7 割で、残りが「下」と記録されている。貧困問題だけでは部落問題が語れない現実がある。ちなみに 1930 年調査には、「副業」欄には何の記載もない。

島原・天草の大一揆（1637－8 年＝寛永 14・15 年）は、原城に立て籠った農民軍、老若男女 37000 人が処刑されて終結した。しかし、原城を包囲した幕府軍は総大将板倉重昌をはじめ、戦死者 1700、負傷者 1 万人を出した。

この一揆の結果、1639（寛永 16）年 7 月、幕府の鎖国政策は完成した。一揆の時に鎮圧に手を焼いた幕府は、長崎の管理の徹底、キリスト教宣教師の取り締まりと処刑、婚姻、居住の禁止などの細則も設けた。これより先、1630（寛永 7）年にはキリスト教関係書が摘発されたり、輸入書の検閲も行われる様になった。

長崎県下における部落は、10 戸以下の少戸数の所が圧倒的に多い、と前に触れた。この少戸数の部落は、島原・天草大一揆に参加はしなかったが、教えを捨てなかったキリスト教徒の監視を主な任務にしていたのではないか。

近世の部落は、よく言われている様な「皮革」関係の仕事をしていたから、近代になって差別を受ける様になったわけではない。近世における部落は、農業のかたわら「役人村」として村々の警備や犯罪人の探索、百姓一揆の際の情報収集などが主な役割であった。長崎県下の部落の場合は、俗に「隠れキリシタン」といわれる、キリスト教徒に対する監視

と情報収集が重要な任務としてあった、とみて間違いないであろう。情報収集なら少戸数でも充分に任務は遂行できる。むしろ大規模部落の方が、任務遂行には不向きである。37000 人が処刑されて終わったとしても、一度信仰生活に入った人々が、人間の精神生活の中心であるキリスト教の信仰を、そう簡単に捨てはしなかったであろう。むしろ弾圧が強まれば強まるほど、信仰は強まるのである。大坂では、「四か所非人」といわれた非人部落が近世の大坂に創られた。四か所で合計 2000 人の非人がいたが、そのうち 902 人が転びキリシタンだった。四か所非人の主な役割のひとつに、キリシタンの摘発が含まれていたのである。「毒をもって毒を制する」やり方である。権力をもつ者は、転びキリシタンとして転向したとしても、完全には信用していなかった、ということなのである（『摂津役人村文書』）。

ところで、近世長崎図をみていると、「穢多町」とか「非人」と書き込まれたものがいくつか散見される。本絵図地図集では、その地域や地名については配慮を加えたが、時間を追って検討してみると、その位置が変化していることに気がつく。ようするに、何度か部落は移転させられている、とみられるのである。

『ふるさとは一瞬に消えた』（長崎県部落史研究所編）によると、まず 1648（慶安元）年に戦国期から居住していた所から、移転させられたことに始まり、1698（元禄 11）年には大火によって焼失し、その場所からの移転を強制されている。この時の火災は「焼き打ち」であつたらしい。移転は 1718（享保 3）年に行われた。こうした部落の移転は、長崎の町の拡大やキリスト教徒の存在と、密接に関係しているとみられる。

なお、本絵図地図集には「寛永 15 年島原耶蘇教徒攻囲陣形図」や「肥前島原之城図」「島原市街大変前及後の図」など、島原・天草の乱関係の物を何点か収録した。こうした絵図地図によって、島原・天草の乱の影響が読み取れると考える。「攻囲陣形図」は雑誌『太陽』12 巻第 8 号、196 P にも訳出されているものと同一の図だが、島原・天草の乱の陣形や作戦を見る時に、大変に重要である。こうした絵図地図によって、文字史料からだけでは窺い知れない、事実を汲み取る努力をしていきたいと考える。多くの人達の活用をお願いしたい。

なお、本稿執筆にあたり、以下の文献を参照した。

『長崎市史』、『長崎市郷土誌』、『長崎県の文化財』、『長崎県教育史』、『長崎開港四百年史』、『長崎県の百年』、『岩波講座日本歴史・近世 2』、『ふるさとは一瞬に消えた』。この他にも何冊かの文献を参照した。

□［壹岐國全圖］ **分類**: 日本圖・地方圖(肥前・壱岐・対馬)
001 **形態・員数**: 1鋪 **縦**: 77cm **横**: 74cm

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-104
通し番号: 02691
解説: 原圖は彩色されている。壹岐の國の詳細な地形圖である。縮尺約9万分の1で、島の東西約15km、島の南北19kmが、近隣の島嶼も含めて鮮やかに描かれている。約60箇所にものぼる、北の壹岐郡、南の石田郡の主要な港、村落、町を結ぶ道路図が丁寧に描かれていて、当時の道路地圖とも言える内容である。現代でも壹岐の主要な港である、壹岐郡の勝本浦、石田郡の郷浦から、それぞれ對馬、平戸及び唐津・名護屋への海路が表示されているのも大きな特色で、当時としては、非常に価値のある航路圖であったことを窺わせる資料である。勝本浦から對馬へは海路四拾八里、戌亥の方角、郷浦から平戸へは海路拾三里、午未の方角、郷浦から唐津・名護屋へは海路拾三里、巳の方角と書かれていて、正確である。東西南北の方位も記載されている。

□［五島領圖(中通島、小値賀島、五島平戸相持領圖)］ **分類**: 日本圖・郡村圖(五島列島)
002 **形態・員数**: 3鋪 **縦**: 88cm **横**: 110cm

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-194
通し番号: 02709～02710
解説: 長崎県立長崎図書館の目録に記載されている[五島領圖(中通島、小値賀島、五島平戸相持領圖)]の中の「五島平戸相持領圖」のみを掲載した。「中通島、小値賀島圖」2鋪は、サイズが、縦90cm,
横128cmと大きく、撮影できなかった。なおこれらの地圖の請求番号も同一であることを、付記しておく。現在の五島列島南松浦郡に所属する中通島の地形図に相当し、主要な村々間の交通方法が描かれている。また、主要な道路、山、島嶼、村落も記載されていて、近隣の福江、平戸などへの航路距離が詳細に測定されていることに鑑みて、当時の人々が使用した航海図であると推定される。ただ、航路の記載は見いだせなかった。五島平戸相持領圖としてあるが、中通島はほとんどが五島藩領で、島の南西部の島嶼が、五島藩と平戸藩の相持領となっているに過ぎない。

□［肥前國壹岐國對馬國一郡限地圖］ **分類**: 日本圖・地方圖(肥前・壱岐・対馬)
003 **形態・員数**: 1綴23枚 **縦**: 28cm **横**: 38cm

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-264
通し番号: 02685～02690
解説: この表題は、長崎県立長崎図書館の図書カードに記載されている名称で、肥前國19郡(藤津郡圖、佐嘉郡圖、杵島郡圖、小城郡圖、神嵜郡圖、三根郡圖、基肄郡圖、養父郡圖、彼杵郡陸地圖《3枚》、彼杵郡嶌嶼圖《3枚》、高來郡圖《2枚》、松浦郡圖《3枚》)、壹岐國2郡(石田郡圖、伊岐郡圖)、對馬國2郡(上縣郡圖、下縣郡圖)、合計23郡の見取図である。隣接する各郡の名称のみが記載されている圖が多く、後は、主要な山脈や河川が描かれているに過ぎない。方位軸も描かれていて、港、村町の有様などが推測できる貴重な資料と言えよう。筆者の氏名は記載されていなく、この地圖の用途から考えてみると、役所などの公的機関が製作したものと推定される。縦及び横の長さは、一枚の地圖についての数値である。

□ 平戸五島両領分圖(小値賀島各浦) **分類**: 日本圖・村圖(五島列島)
004 **形態・員数**: 1鋪 **縦**: 86cm **横**: 105cm

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-185
通し番号: 02980
解説: 五島列島の小値賀島は、平戸藩と五島藩の領土が複雑に入り組んでいるために、こような地圖が作成されたのであろう。新田、屋敷なども隣接しているにもかかわらず、両藩がそれぞれに所有しているなど、複雑な資料である。

□［對馬古地圖］ **分類**: 日本圖・地方圖（肥前・壱岐・対馬）
005 **形態・員数**: 1鋪 **縦**: 52cm **横**: 134cm

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-213-3
通し番号: 02692
解説: 原図は彩色されている。縮尺は約十五万分の一。南北約68km、東西約32kmの對馬列島の海路圖とも言えるもので、各主要な港間を連絡する航路が描かれている。江戸時代における對馬の交通路を知るうえでの貴重な資料と言えよう。

□［對馬ノ図］ **分類**: 日本圖・地方圖（肥前・壱岐・対馬）
006 **形態・員数**: 2鋪 **縦**: 77cm **横**: 52cm

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-230-2
通し番号: 02693
解説: 明治初期の對馬の村役所が記載されている貴重な資料である。

□［長崎府支配地肥前國、彼杵郡、高来郡繪圖］ **分類**: 日本圖・郡村圖（肥前）
007 **形態・員数**: 1鋪 **縦**: 76cm **横**: 115cm

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-256
通し番号: 02751
解説: 長崎市中から南下して、香焼島の対岸にあたる深堀と、そこから山を挟んで背後に位置する藤田尾までの長崎半島の道路圖である。香焼島が伊王島よりも大きいなど、精密に測量された地圖でないことは明らかで、各村々間の陸上交通圖といったものであろう。出島以外に、大浦に外国人居留地が記載され、これらの対岸に、製鉄所、船打建所（造船所）が見られ、興味を引く内容である。

□ 肥後國天草明細圖 **分類**: 日本圖・郡村圖（肥後）
008 **形態・員数**: 1鋪 **縦**: 34cm **横**: 36cm

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-200-1
通し番号: 02852
解説: 肥後國天草諸島、肥後國八代海沿岸地方、肥前國島原半島南部・東部地区を収録した地圖である。明治15年2月に製作されているが、地名の記載方法などを考察すると、明治初期以降の地理的位置を示したものと推定される。主要な地名のみが列挙されていて、郡廳、戸長役場の位置や合併した部落が表示されていて、地名を特定する目的のためだけに作成された想像圖であることを物語っている。地形・道路・河川などが不正確に表記されているのは、それらの情報を、あえて必要としなかったためであろう。

□［肥前之國圖］ **分類**: 日本圖・地方圖(肥前・壱岐・対馬)
009 **形態・員数**: 1鋪 **縦**: 55cm **横**: 38cm

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-201-2
通し番号: 02694
解説: 現在の九州の佐賀県、長崎県、熊本県の沿岸部、鹿児島県の地図で、きわめて模式的である印象は拭えない。壹岐、對馬、島原半島、薩摩半島、大隅半島の形などもかなり不正確で、ほとんど原形をとどめていない。ことに、壹岐は對馬よりも面積が大きく、對馬に至っては、南北にではなく、東西に細長い奇妙な形になっている。製作年代を精確に特定することはできないが、主要な藩の領主の氏名が記載されていて、かつ、唐船や和蘭陀船の航路が記されていることを勘案すると、おそらく江戸時代中期頃に作成されたと推定される。租税の適切な徴収のために領地の面積を正確に測定するためではなく、九州西部の主要な港や町村から各地への航路による距離を計測することが主要な目的の見取圖である。仮の表題も［肥前之國圖］とするのは適切ではなく、［江戸時代中期における西九州沿岸の航路圖］としたほうが、内容を十分に表現していよう。

□肥後國天草郡之圖(十組八十八ケ村) **分類**: 日本圖・郡村圖(肥後)
010 **形態・員数**: 写本 1鋪紙本着色 **縦**: 39.3cm **横**: 53.3cm

所蔵機関: 長崎市立博物館 **請求番号**: 図108
通し番号: 02853
解説: 天草諸島の概念圖とも言えるもで、実際の位置や形との隔たりはかなり大きい。大矢野島、上島、下島も原形をとどめてはいない。方位も南が天にくるなど、正式な地圖の体裁をなしていない。対岸の肥後國、肥前國、薩摩國なども、その沿岸部分だけが描かれている。細川越中守領分肥後國宇土郡、細川越中守領分肥後國八代郡、松平大隅守領分薩州出水郡、五嶌大和守領分肥前國松浦郡、高木作右エ門御代官所肥前國高来郡などの表記から考察するに、江戸時代のかなり早い時期に製作された資料であろう。十組八十八ケ村の名称は正確に記載されているので、江戸時代の肥後國天草郡の地誌を研究するための重要な文献である。

□［肥前長崎圖］ **分類**: 日本圖・都市圖(長崎)
011 **筆者**: 文錦堂(発行)
形態・員数: 刊本、1鋪、紙本色刷(木版) **縦**: 35.2cm **横**: 45.0cm
所蔵機関: 長崎市立博物館 **請求番号**: 図5
通し番号: 02856
解説: 1802(享和2)年に文錦堂から刊行されたこの地圖は、おそらく、長崎の案内圖として、大量に印刷されたのであろう。出島の阿蘭陀屋敷、唐人屋敷、丸山遊郭などが描かれていて、長崎名所案内記といった体裁である。

□肥州長崎圖　全 **分類**: 日本圖・都市圖(長崎)
012 **形態・員数**: 1鋪 **縦**: 67cm **横**: 90cm

所蔵機関: 国立公文書館 **請求番号**: 177-735
通し番号: 02860
解説: 今回の巻に未掲載の「長崎繪圖面」(金沢市立玉川図書館所蔵、1802［享和2］年6月、文錦堂刊行)と同一系統の地圖であると推定される。この資料は、1778(安永7)年に長崎勝山町の大畠文次右衛門により刊行されている。同一の資料を長崎県立長崎図書館が所蔵している(請求番号:3-43)。この二つの資料は内容が類似しているが、同一の版を使用していない。ただ、「長崎繪圖面」の方が、より微細にわかりやすく表現されているのが目だっている。

□［長崎港古圖］ **分類**: 日本圖・都市圖(長崎)
012 **形態・員数**: 1舗

所蔵機関: 国立公文書館 **請求番号**: 177-24
通し番号: **02874**
解説: 出島、唐人居留地、役所街などが描かれているので、044[長崎港古圖]よりも以後に作成された鳥瞰圖であると推定される。長崎灣の水深は記載されていない。044[長崎港古圖]とほぼ同一の地域の地圖であるが、長崎市内の都市としての郊外への拡大が容易に理解できる内容となっている。

□ 肥前國長崎之圖 **分類**: 日本圖・都市圖(長崎)
013 **形態・員数**: 1枚 **縦**: 2.1cm **横**: 4.3cm

所蔵機関: 国立国会図書館 **請求番号**: 166-184
通し番号: **02854～02855**
解説: 長崎港を出て、長崎半島の西海岸に沿って南下して、その半島の突端にあたる野母崎までを描いた地形圖である。長崎市内の官庁、寺院、遊郭、外国人居留地、倉庫などが詳細に描かれていて、江戸時代の早い時期に製作されたことを窺わせる内容である。阿蘭陀人の居住する出島の南側に、唐人居住地が描かれていて、屋敷や商品倉庫を含む延べ面積が、出島の約3倍の広さであることは注目に値しよう。この中国への出入口の異常な大きさは、江戸時代における日中関係の緻密さを類推するのに十分である。「1633(寛永10)年の海外渡航禁止令布告以降も、世界の特定の国家との文化的・経済的交流は依然として継続されていて、日本は孤立していたのではなく、世界の経済システムの中にとりこまれていた」とする見解を十分に証明する資料である。附録として、海外諸国、日本各地への里程も表記されているのも興味深い。

□［正保四年黒船(長崎来港圖)］ **分類**: 日本圖・都市圖(長崎)
014 **形態・員数**: 1舗 **縦**: 60cm **横**: 133cm

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-219
通し番号: **02864～02865**
解説: 1647(正保4)年6月、ポルトガル船2隻が長崎に来航し、通商関係を要請する事件が発生した。同年8月、幕府はポルトガル船に通商拒絶を通告し、帰帆させた。幕府はこの軍船の入港に際して、長崎灣の両岸に陣地を構え、灣の南端を艀で封鎖した。その事件を記したのが、この地圖である。これらの船舶の形状を記した付箋の貼り込みがあり、重火器を備えた軍船(黒船)が来航したことが見てとれる。出島、唐人居留地、寺院なども見られるが、長崎市内の建設も発展途上であることが窺われる内容の地圖である。

□［諸役所繪圖］ **分類**: 日本圖・都市圖(長崎)
015 **形態・員数**: 1帖、折本 **縦**: 39cm

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-160
通し番号: **02923～02924**
解説: 058[長崎諸官公衙及付近之圖]、059[長崎諸官公衙圖]とは異なり、役所の繪圖は全く掲載されていない。御組屋舗(3865坪)が、1843(天保14)年に建築されているとの記述があるために、これらの地図群の製作年代を19世紀と推測した次第である。その他に、小嶋弥塩硝藏、櫻町鐘楼(31坪)、唐鳥小屋、大音寺、炮術場(475坪)、銀杏遠見番所、湊見張番所、公儀普請御用物藏などが掲載されている。

□［長崎港外圖］ **分類**: 日本圖・都市圖(長崎)
016 **形態・員数**: **縦**: 74cm **横**: 128cm

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-35-1
通し番号: 02888
解説: 長崎灣の入口から西彼杵郡を一望できる見取圖で、長崎市中から、日見村、茂木村、戸町村、川徳村を経て野母崎へ達する道筋が正確に描かれている。道路、御料地、私領地、海川が色分けして描かれた美しい彩色地圖である。鼡嶋、高鉾嶋、神ノ嶋、香焼嶋、伊王嶋、高嶋、椛嶋もほぼ正確な位置に描かれている。

□［長崎港口地圖］ **分類**: 日本圖・都市圖(長崎)
017 **形態・員数**: 1鋪 **縦**: 26cm **横**: 38cm

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-198-2
通し番号: 02866
解説: 長崎港から沖合約20kmまでの地圖で、形状は不正確このうえもない。唐船と阿蘭陀船の航路、長崎灣両岸の主要な村落名が記載された見取圖である。長崎市内も、出島と埋立られた新地が描かれているが、唐人居留地は見いだすことができなかった。この地圖が書かれた当時、唐人居留地が建設されていたか否かを検証することはできなかった。阿蘭陀船が長崎港から香焼島と伊王島の北部から五島灘の方向に抜けていたのに対し、唐船は香焼島と伊王島の間の水道を通過して南下する航路をとっていたのは、注目に値する。

□［長崎港圖］ **分類**: 日本圖・都市圖(長崎)
018 **形態・員数**: 1巻 **縦**: 27cm **横**: 57cm

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-107-1
通し番号: 02867
解説: 長崎灣から西彼杵半島の野母崎までの海路圖である。ことに長崎灣の両岸の距離、湾内の海深、陸地の高度などが17地点にわたって計測されている精緻な地圖である。039［長崎港口地圖］にも見られるように、唐船と阿蘭陀船の航路が描かれていて、阿蘭陀船が長崎港から香焼島と伊王島の北部から五島灘の方向に抜けていたのに対し、唐船は香焼島と伊王島の間の水道を通過して南下する航路をとっている。

□［長崎港水路圖］ **分類**: 日本圖・都市圖(長崎)
019 **形態・員数**: 1枚 **縦**: 76cm **横**: 155cm

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-127
通し番号: 02868〜02869
解説: 明治初期以降に作成された長崎港の水路圖で、出島はすでに埋立られている。湾内の水深が表示されていて、長崎灣から南下して、長崎半島の、高鉾島の対岸までが描かれている。

□［長崎港内外旧砲臺圖］ **分類**: 日本圖・都市圖（長崎）
020 **形態・員数**: 1巻 **縦**: 39cm **横**: 148cm

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-95-1
通し番号: 02870
解説: 1648（慶安1）年から1853（嘉永6）年までに長崎港に建造された砲台の位置を示す鳥瞰圖。砲台は、1648（慶安1）年に2地点2台、1653（承應2）年に7地点7台、1808（文化5）年に7地点7台、1809（文化6）年に4地点4台、1810（文化7）年に4地点10台、1843（天保14）年に1地点1台、1853（嘉永6）年に2地点2台、それぞれ建てられている。

□［長崎港之圖］ **分類**: 日本圖・都市圖（長崎）
021 **形態・員数**: 1鋪 **縦**: 62cm **横**: 151cm

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-122-1
通し番号: 02879～02880
解説: 地名の表記が全くみられない地圖である。ただ、038［正保四年黒船（長崎来港圖）］とあまりにも内容が類似していることを推理すると、1647（正保4）年6月、ポルトガル船2隻が長崎に来航し、通商関係を要請する事件が発生した時の地圖であるこは疑いない。長崎灣の両側、近隣の小島で警備にあたった大名の家紋に同一のものが見られるからである。038［正保四年黒船（長崎来港圖）］よりも稚拙な表現であることは否めない事実で、おそらく、模写された圖であると推定される。

□［長崎諸官公衙圖］ **分類**: 日本圖・都市圖（長崎）
022 **筆者**: 若杉吉兵衞
形態・員数: 1帖、折本 **縦**: 38cm **横**: 13cm
所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-37-2
通し番号: 02913～02922
解説: 文化4（1807）年10月に若杉吉兵衞が製作し、翌、文化5（1808）年6月に松平圖書頭の在勤時に改訂されている。前に掲載した058［長崎諸官公衙及付近之圖］とは異なり、単独の作者によって製作されていることは明白で、整理の行き届いた非常に重厚な内容となっている。西御役所（1679坪）、立山御役所（3239坪）、岩原御屋敷（863坪）、長崎會所（504坪）、御普請方用屋敷（128坪）、北瀬崎御米藏（1561坪）、南瀬崎御米藏（299坪）、出島（3969坪）、新地（3850坪）、唐人屋舗（9363坪）、牢屋（744坪）、溜牢（184坪）、御船藏（1133坪）、波戸場（606坪）、遠見番唐人番長屋（2231坪）、引地町町吏長屋（735坪）、安禪寺御宮並御靈屋（3032坪）、西山郷御藥園（948坪）、小瀬戸遠見番所、野母遠見番所、俵物役所（805坪）、炮術場（475坪）、櫻町鐘樓などの資料が掲載されている。新地は058［長崎諸官公衙及付近之圖］に掲載されていないので、おそらくこの頃に建設されたものであろう。

□長嵜湊外沖之圖 **分類**: 日本圖・都市圖（長崎）
023 **形態・員数**: 1鋪 **縦**: 35cm **横**: 46cm

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-63-1
通し番号: 02889
解説: 1853（嘉永6）年、ロシア極東艦隊司令長官プチャーチン軍艦4隻を率いて長崎に来航した時の繪圖である。その後、プチャーチンは、同年12月5日にも再び来訪し、国境・通商問題などで幕府の係官と協議している。プチャーチンは翌1854（嘉永7）年3月23日にも再々度訪れ、同月28日に「樺太国境及び通商に関する覚書」手渡し、翌29日に長崎を出帆している。048「長崎海岸之圖」と同様に、長崎灣内に4隻の黒船が描かれている。おそらくこの地圖と048「長崎海岸之圖」は同じ目的をもって描かれた地圖であろう。ただこれらの地圖を比較してみると、この地圖の方が表現方法が豊かで、御臺場、御番所、御陳所、村落名などが詳細に記載されている。また、048「長崎海岸之圖」が長崎港の入口奥深くに位置する大浦川口から描いているのに対して、この「長嵜湊外沖之圖」は長崎灣の中程にある西泊御番所、戸町御番所から描き始めている。「長嵜湊外沖之圖」が西彼杵半島の突端に位置する野母崎が終点となっているが、048「長崎海岸之圖」は高鉾嶋」附近で終わっている。なお、西泊御番所と戸町御番所は筑州と肥州が隔年で勤番をつとめていたことを付記しておく。

□［長崎奉行所西御役所之圖面］ **分類**: 日本圖・都市圖（長崎）
024 **形態・員数**: 1枚 **縦**: 26cm **横**: 40cm

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-154
通し番号: 02925
解説: 西御役所の見取圖で、各部屋の詳細が書かれている。

□［野母崎ヨリ長崎迄海上ノ圖］ **分類**: 日本圖・郡村圖（肥前）
025 **形態・員数**: 1枚 **縦**: 28cm **横**: 41cm

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-197
通し番号: 02992
解説: 長崎半島の突端に位置する野母崎から長崎灣内までを一望できる見取圖。唐船とオランダ船の航路が示されている。

□ 野母遠見ヨリ見取圖 **分類**: 日本圖・郡村圖（肥前）
026 **形態・員数**: 1枚 **縦**: 28cm **横**: 39cm

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-199
通し番号: 02993
解説: 野母遠見番所の頂点にたって、近海を見渡したときの見取圖である。当然のことながら、実測された図ではなく、あくまで想像圖の域を出ない。天にあたる東部には島原半島、南部には薩摩國、北部には大村領、地にあたる西部には五島列島が配置されるという、独創的な地形圖となっている。江戸時代にいて、奇抜な創造力を駆使した作者の慧眼には敬意を表する価値があろう。

□［幕府時代長崎港各番所之圖］ **分類**: 日本圖・都市圖（長崎）
027 **形態・員数**: 1鋪 **縦**: 82cm **横**: 116cm

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-64
通し番号: 02871
解説: 西泊、戸町、女神、神崎、魚見岳、高鉾島などに設置された番所の見取圖。

□［長崎諸官公衙及付近之圖］ **分類**：日本圖・都市圖（長崎）
028 **形態・員数**：1帖、折本 **縦**：38cm **横**：13cm

所蔵機関：長崎県立長崎図書館 **請求番号**：3-36-2
通し番号：**02897～02912**
解説：幕藩体制の確立以降、長崎も政治・軍事・経済機構の整備に着手し、それに伴い官庁街、軍事施設、倉庫施設、外国人居留地、寺院などもより機能的に再構築されることになった。057［崎陽諸圖］、058［長崎諸官公衙及付近之圖］、059［長崎諸官公衙圖］、060［諸役所繪圖］は、長崎の官庁街の形成と発展の歴史を俯瞰するための最適の資料であると判断し、あえて並べて掲載することにした。1766（明和3）年に「稲佐鹽硝藏、御舩藏が境内に移される」という記述があるために、これらの地圖群を、この年の後に作成されたものとして判断した。また、この資料は、折本になっていて、各繪圖の表現様式も異なるので、全てのものが同一の時期に製作されているとは断定しがたいが、あえて一括のものとして考察することにした。最初は見取圖で、西御役所圖、立山御役所圖、岩原御屋敷圖、西泊御番所圖、戸町御番所圖、野母御番所圖、烽火山御番所圖、小瀬戸御番所圖、稲佐鹽硝藏圖、御舩藏圖、南瀬嵜御米藏圖、北瀬嵜御米藏圖、西御役所より大波戸に至る圖が掲載されていて、あまり精確であるとは言えない地圖集成と言える。安禪寺御宮並御靈屋、大音寺御位牌所、西御役所（1679坪）、

□［長崎港圖］ **分類**：日本圖・都市圖（長崎）
029 **形態・員数**：原本 1枚（額入）銅版画着色 **縦**：26.5cm **横**：41.5cm

所蔵機関：長崎市立博物館 **請求番号**：図182
通し番号：**02875**
解説：ヨーロッパで製作された書籍から転載した地圖。表題は「Plan de la Ville et du Port de Nangasaki (Grond Tekening van de Stad en de Haven van Nangasaki」と書かれている。縮尺は約2万分の1と表示されている。縮尺がlieue（里、約4km）で表示されているので、フランス語で書かれた資料から写した資料であると推定される。ただ、AからQまで12箇所がアルファベット表記で示されているもの、それらに対する説明は見あたらない。

□［長崎港古圖］ **分類**：日本圖・都市圖（長崎）
030 **形態・員数**：写本 1鋪紙本着色 **縦**：77.5cm **横**：132.0cm

所蔵機関：長崎市立博物館 **請求番号**：図135
通し番号：**02872～02873**
解説：出島のみが描かれ、唐人居留地が見当たらないので、1636（寛永13）年以降に製作の地圖であると推測される。都市としての発展は見られず、人家も少なく、寺も十善寺のみが記載されているだけである。江戸時代初期に製作された地圖であろう。長崎灣の水深も少なからず記載されている。

□［日本輿地圖］第182鋪 ［肥前之州］長崎圖 **分類**：日本圖・都市圖（長崎）
031 **筆者**：森幸安（森謹齋）
形態・員数：222鋪

所蔵機関：国立公文書館 **請求番号**：177-1
通し番号：**02858～02859**
解説：1745（延享2）年に京都寺町通の林治左衛門により刊行されたこの地圖は、1600年代に作成されたものとは異なり、圖も微細に描かれ、記述も丁寧な表現が目立ち、長崎の発展の有様が容易に見てとれる内容となっている。長崎の地理的環境、長崎八景、烽火山十景、諏訪社などの詳細な解説が書かれていて、当時の観光地圖の面目躍如たるものがある。ただ、南が天に来るために、通常の長崎地圖と逆になっているのが興味深い。

□ 日本輿地／西海道部／肥州五嶋地圖 **分類**: 日本圖・郡村圖(五島列島)

032 **筆者**: 森幸安(森謹齋) **年代**: 1752(寶暦2)年

形態・員数: 222舗のうち第183舗に相当

所蔵機関: 国立公文書館 **請求番号**: 177-1

通し番号: 02711

解説: [日本輿地圖]第183舗で「日本志西海部／肥前之州／五嶌地圖」の記載が有る。18世紀に製作されたこれらの日本輿地圖群シリーズは、日本列島の地理的調査が進んだためか、人口、農産物生産高、牛馬の数、戸数、面積などの地誌的・地理的情報が豊富化されてくる。この地圖もその例に漏れず、五嶋列島の地勢が詳細に報告されている。「南北二十餘里、東西の距離は緯度により変化し、島嶼数は四十餘で、人家は十六島に点在していて、各島々を隔てている瀬戸は潮の流れが早い」と書かれてある。また、「海上交通を利用すると、南松浦郡の中心の港である福江より長崎へ四十四里、平戸へ三十二里、壹岐へ四十五里、對馬へ九十三里」と記録されていて、当時としては、非常に精確な内容である。島の南部は五嶌淡路守領、五嶌竹助領、北部はこの二つの五嶌領に加えて、平戸領、大村領が混在していて、領地がたいへん入り組んでいることを物語っている。

□ [崎陽諸圖] **分類**: 日本圖・都市圖(長崎)

033 **形態・員数**: 24舗

所蔵機関: 国立公文書館 **請求番号**: 177-838

通し番号: 02891～02896

解説: [崎陽諸圖]と題されて、砲臺圖12種類、役所・米藏などの平面圖11種類、合計23種類の地圖が掲載されている。表題のない、あるいは不明確な資料を整理するに際しての分類方法としては、やや粗雑である感は否めない。研究するのに多大の時間を要する資料群である。砲臺圖には西泊御番所、戸町御番所、太田尾の地名が読み取れる。また、表題のない1枚の砲臺圖は、椛嶋が描かれていることから類推するに、おそらく西彼杵半島の突端に位置する野母崎遠見番所を指すものであろう。また、南瀬嵜御米藏(299坪)、北瀬嵜御米藏(1561坪)、出嶋(3969坪)、俵物役所(805坪)、唐人屋舗(9363坪)、西御役所(1679坪)、立山御役所(3239坪)、牢屋(744坪)、溜牢(184坪)の平面圖が掲載されている。これらの平面圖は総坪数が計算され、精確に描かれていて、研究のための非常に有用な資料となっている。江戸時代の公共的な建造物の設計方法を研究するための価値ある文献であろう。

□ [長崎近傍圖] **分類**: 日本圖・郡村圖(肥前)

034 **形態・員数**: 1舗

所蔵機関: 国立公文書館 **請求番号**: 177-345

通し番号: 02861

解説: 長崎縣、佐賀藩、大村藩と表記されていることから推察すると、明治時代初期の道路圖であろう。陸地の形は不正確であるが、各駅の地名は正確に表示されている。長崎市内から、西彼杵郡の沿岸部へのルートが明確に表示されている。

□ [舊幕模寫長崎港圖] **分類**: 日本圖・都市圖(長崎)

035 **形態・員数**: 1舗

所蔵機関: 国立公文書館 **請求番号**: 177-59

通し番号: 02876

解説: 長崎湾の対岸までの距離を十数ケ所にわたって計測した鳥瞰圖で、唐船、阿蘭陀船の航路も詳細に示されている。長崎市内及び郊外の農村地帯までも丁寧に描かれていて、長崎の都市としての発展が理解できる格好の資料である。原圖は、田地、道筋、山嶋、海川、島原掛、大村領、佐嘉領が整然と色分されている、美麗な彩色圖である。

□ 長崎海岸之圖 **分類**: 日本圖・都市圖(長崎)
036 **形態・員数**: 1舗

所蔵機関: 国立公文書館 **請求番号**: 177-18
通し番号: 02877
解説: 題箋は長崎港■臺圖と書かれている。長崎海岸之圖は内題である。ただし、実際は、長崎湾内の地圖である。幕末に製作された精度の高い地圖であることが窺われるのは、圖中の右上に、ロシアの軍事力についての但し書きが見られることにある。灣内に描かれているロシアの4隻の黒船は軍船で、走行距離が記されている。

□ 長崎居留場全圖 **分類**: 日本圖・町圖(長崎)
037 **形態・員数**: 1枚 **縦**: 30cm **横**: 22cm

所蔵機関: 国立国会図書館 **請求番号**: 202-218
通し番号: 02938
解説: 1866(慶応2)年6月の年記がある。題箋は「瓊浦／居留場繪圖　全」。出島、唐人屋敷を含む外国人居留場が一望できる資料である。幕末期になると長崎に在住する外国人も増加したために、大規模な外国人用の住宅地が、唐人屋敷の南側、長崎灣に沿った地帯に建設されることになった。この外国人居留地を詳細に記したのが本資料で、海岸から山の斜面に向けて整然と建てられている。長崎灣の眺望がよい、斜面の上へ上がるに従って上等の住宅街とされていた。整然と区画整理されていて、住宅番号がふされていて、いかにも新興住宅街であることが理解できる内容である。

□ 天草嶋富岡地勢要圖 **分類**: 日本圖・村圖(肥後天草)
038 **筆者**: 塚政直、高木扣
形態・員数: 1舗 **縦**: 55cm **横**: 74cm

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-76
通し番号: 02857
解説: 天草諸島下島の北西部に位置する富岡の地誌を1枚の繪圖で表現した稀有な資料である。富岡灣の奥深くに建設された富岡港は、交通・軍事の要衝にあたるために、富岡陣屋が置かれ、代々の領主達によって受け継がれてきた。1823(文政癸未[6])年10月に紫麻藩士塚政直によって書かれた書面は、富岡の当時の有様を如実に表現している。富岡陣屋の最初の建築時の領主は唐津城主寺澤志摩守高で、1604(慶長9)年のことである。その後、山崎甲斐守家治の領地となり、1664(寛文4)年に至って、戸田伊賀守忠昌が支配することとなった。富岡陣屋建築の66年後にあたる1670(寛文10)年に、この陣屋は被害を受けている。遠見小屋、山方役小屋、古城山、御米藏の由来や現在の有様などが詳しく語られ、詳細な村地圖ともあいまって、富岡の歴史と地誌を俯瞰できる充実した構成となっている。

□ [伊王島旧砲臺地圖] **分類**: 日本圖・村圖(肥前)
039 **形態・員数**: 1巻 **縦**: 77cm **横**: 177cm

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-79
通し番号: 02999～03000
解説: 109「伊王島略圖」をさらに詳しく表現した地圖である。縮尺も小さくなっているために、より詳細に描かれている。植生や村落の有様なども容易に把握できる内容である。道路、土居、境界が色分けされた精緻な地圖である。後世に新たに書かれた記載は付箋に記されている。

□ 諫早圖及附属書類 **分類**: 日本圖・郡村圖(肥前)

040 **形態・員数**: 4鋪

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-163

通し番号: 02806〜02807

解説: 表題は諫早圖及附属書類としてあり、正確には(1)高来郡小野邨黒嵜名溜池の見取圖、(2)戸長役所や村境を表示した北高来郡の34ケ村内圖、(3)諫早に存在する米蔵設計圖4枚と見取圖1枚、(4)諫早の村繪圖、の四部構成となっている。(2)に「明治三年秋創立／津水官庫」と表記されているので、これも明治初期以降に製作された地圖であろう。

□ [石田郡十一ケ村圖] **分類**: 日本圖・郡村圖(壹岐)

041 **形態・員数**: 11鋪

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-233

通し番号: 02695〜02701

解説: 壹岐國の南部の主要港石田附近の十一地区(筒城村、初山村、武生水村、長嶺村、物部村、半城村、志原村、石田村、池田村、黒崎村、渡良村)の明治初期の地圖である。主要な幹線道路及び河川、山嶺、郡界、村界、触界、寺院、神社、学校、郵便局、飛地、田畑、人家、掲示板のおいてある地点、元標などが書き込まれていて、人々の生活のための有用な資料となっているのが大きな特色。また、「壹町六分ノ割ヲ以テ製圖」と断わり書きがあるのを見れば、日本の伝統的な地図製作手法により描かれた資料であることも理解でき、地図製作史のレヴェルでみても、見逃せない資料である。これらの地圖群の内容を見れば、「近世絵圖地圖資料集成」の表題にそぐわない面もあるが、明治初期までは、江戸時代の遺制がまだ残存していて、道路、土地、建物などの大幅な変更はなく、江戸時代から明治時代への変遷を確認するための貴重な資料であると判断して、あえて掲載した次第である。前掲の004[對馬ノ図]も同様の趣旨で掲載した。

□ 稲佐嵜御臺場繪圖 **分類**: 日本圖・町圖(長崎)

042 **形態・員数**: 1鋪 **縦**: 40cm **横**: 53cm

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-151

通し番号: 02951

解説: 稲佐嵜字舩津の奥福寺福源庵に隣接して築造された御臺場の見取圖。

□ [浦上新田馬乗塲所外周繪圖] **分類**: 日本圖・町圖(長崎)

043 **形態・員数**: 1鋪 **縦**: 53cm **横**: 73cm

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-202-1

通し番号: 02940

解説: 外周782間8分、内周722間8分、平均周囲752間8分、根張10間、総7528坪と表記されている。馬の調教場の地圖である。

□ 浦上新田馬乗場所出来繪圖 **分類**: 日本圖・町圖(長崎)
044 **形態・員数**: 1鋪 **縦**: 53cm **横**: 53cm

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-202-2
通し番号: 02941
解説: 馬の調教場の出来上がった平面圖である。

□ 浦上新田馬乗場目論見繪圖 **分類**: 日本圖・町圖(長崎)
045 **形態・員数**: 1鋪 **縦**: 53cm **横**: 51cm

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-202-3
通し番号: 02941
解説: 馬の調教場の設計圖である。

□ [浦上淵村圖] **分類**: 日本圖・郡村圖(肥前)
046 **形態・員数**: 1鋪 **縦**: 37cm **横**: 190cm

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-221
通し番号: 02942～02943
解説: 長崎灣の奥深く、浦上川の川口から、平戸小屋を通過して西泊御番所付近までの海岸線の見取圖である。飽裏、岩瀬の灣付近には埋立地の表示が見られることから考えて、土地利用を目的として測量された地圖であると推定される。

□ [江ノ嶋、平嶋地圖](肥前一國繪圖之内抜書) **分類**: 日本圖・郡村圖(肥前)
048 **形態・員数**: 1鋪 **縦**: 63cm **横**: 86cm

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-57-2
通し番号: 02981
解説: 北緯33度に位置し、大島と中通島(五島列島)の間に浮かぶ江ノ嶋、平嶋と近隣の島々を結ぶ航路圖である。

□［大浦郡、上郷、下郷、蓑尾郷圖］ **分類**: 日本圖・村圖(肥前)
049 **形態・員数**: 1鋪

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-241
通し番号: 02862
解説: 現在の長崎市深堀地区に相当する。

□［大村藩黒木郷其他圖］ **分類**: 日本圖・村圖(肥前)
050 **形態・員数**: 1鋪 **縦**: 70cm **横**: 130cm

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-253
通し番号: 02988
解説: 多良岳、経ケ岳を挟んで佐賀県藤津村と対峙する黒木郷の見取圖である。東西に細長く、東部はほとんど山岳地帯で、その谷間の部分に人々が棲息していることが容易に理解できる地圖である。

□［大村藩番所圖］ **分類**: 日本圖・村圖(肥前)
051 **形態・員数**: 1鋪 **縦**: 97cm **横**: 88cm

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-9-1
通し番号: 02989
解説: 大浦、梅ケ崎、魯西亞館、唐人番御長屋の表記から類推すると、長崎近郊に設営され、大村藩の番所である可能性が高い。また、畑や草地も詳細に描かれた貴重な繪圖である。

□［大村領・佐賀領御領地絵圖(大村領古賀村控圖)］ **分類**: 日本圖・郡村圖(肥前)
052 **形態・員数**: 1鋪 **縦**: 78cm **横**: 73cm

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-202-4
通し番号: 02749～02750
解説: 角力灘に面した西彼杵半島の西部沿岸圖である。南は、高島の対岸にあたる西彼杵郡の蚊焼から、北は、西彼杵半島の突端に位置していて、平戸領と大村領の境界にあたる寄船までの沿岸線圖が描れkている。彩色されている原圖は、大村領、佐賀領と色分けされていて、主要な地名の他に、山、瀬、御番所、御臺場などが表示されている貴重な資料である。

□［管内圖(藤津郡、高来郡、彼杵郡、天草郡)］ **分類**: 日本圖・郡村圖(肥前・肥後)
053 **形態・員数**: 1鋪 **縦**: 57cm **横**: 58cm

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-90
通し番号: 02748
解説: 現在の熊本県天草郡を含む、長崎県、佐賀県西部が俯瞰できる広域圖。縮尺216000分の一の書き込みは、この地圖の製作以降、おそらく近代に行われたものであろう。原図には、里の縮尺表記がある。

□［基肄郡圖］ **分類**: 日本圖・郡村圖(肥前)
054 **形態・員数**: 13鋪

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-259
通し番号: 02773～02784
解説: 福岡県の筑紫郡と接する、佐賀県基肄郡(現在の佐賀県三養基郡の北部地方に対応する)の十三ケ村(田代村、永吉村、神辺村、柚比村、宮浦村、小倉村、園部村、長野村、酒井西村、酒井東村、飯田村、姫方村)の地圖である。原圖は彩色されている。019[東彼杵郡圖]、020[三根郡村圖]と同じ様式で製作された明治初期以降の地圖で、河川、山、人家、社寺、道路、街譯、河川の流勢、境界などを表示している。地圖の縮尺と推定される、壹町六分、壹町六分割、壹町壱寸貳歩割、壹厘壹間之割、壹厘壹間割、貳厘壹間ノ割、壹分百間ノ割、壹間壹厘、壹間貳厘之割などの表記が見られるのも大きな特色。また、小春、黒目牛などのような小字が詳しく記載されているのも注目に値する。中世に由来すると推定される五反田、■申堂なども表記されている。

□［北有馬村、南串山村境繪圖］ **分類**: 日本圖・郡村圖(肥前)
055 **形態・員数**: 1鋪 **縦**: 99cm **横**: 139cm

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-210
通し番号: 03002～03003
解説: 島原半島の南部に位置する北有馬村と南串山村の境界地圖である。

□［北松浦郡各村圖］ **分類**: 日本圖・郡村圖(肥前)
056 **形態・員数**: 35鋪 **縦**: 35cm

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-276
通し番号: 02712～02727
解説: 現在の長崎県北松浦郡に属する地域の見取圖である。北松浦半島は言うに及ばず、平戸島、大島、宇久島までの多くの村々を網羅した広範囲な見取圖である。平戸村西分、佐々村、志佐村、世知原村、星鹿村、御厨村、鹿町村、大島全島(大島村、的山村)、田平村、小佐々村、福井村、田代村、古田村、下寺村、吉田村、大崎村、長坂村、横辺田村、高埜村、寶龜村、小手田村、市瀬村、前津吉村、中野村、獅子村、柚木村、中里村、山口村、大埜村、里美村、黒島村、柳村、宇久島全島(平村、神浦村)が該当する。これらの地図群も、前掲の006[石田郡十一ケ村圖]、007[琴部六ケ村圖]、008[和板部拾一ケ村]、009[仁井郷拾ケ村圖]と同一系統の地圖で、明治初期以降に作成されている。見取圖で、各村や私有地の領域を明かにする目的が、容易に読み取れる内容である。ただ、「五毛を一間とする」ことが明記されているのが興味深い。横のサイズもまちまちなので、ここでは、数量の関係で、割愛せざるを得なかったことをお断わりしておく。なお、川玉社、松山社、祝詞社など珍しい神社名が見られることを付記しておく。

□ 北松浦郡平戸町市街之圖 **分類**: 日本圖・村圖(肥前)
057 **形態・員数**: 1鋪 **縦**: 27cm **横**: 39cm

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-254
通し番号: 02975
解説: 「壱分ヲ以テ壱間トス」と表記されているので、縮尺は約600分の1である。平戸町市街の一部の地圖である。

□ [旧五島平戸相持領圖] **分類**: 日本圖・郡村圖(五島列島)
058 **形態・員数**: 1鋪 **縦**: 78cm **横**: 145cm

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-218-2
通し番号: 02728～02729
解説: 前に掲載した、010[五島領圖(五島平戸相持領圖)]と同じく中通島の地圖で、それよりも省略されている箇所が多い。

□ [旧福江之圖] **分類**: 日本圖・郡村圖(五島列島)
059 **形態・員数**: 1鋪 **縦**: 133cm **横**: 75cm

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-153
通し番号: 02982～02983
解説: 正確には、福江を起点としての五島列島の各地への陸路、海路を含む交通圖である。江戸時代に製作された地圖であることは疑いなく、現在と同じく、当時にあっても、福江が交通の要衝であったことを物語っている。宇久嶋、中通嶋へは海上交通に頼っていたことが窺われ、距離なども表示されているので、当時の交通システムを調査するためにも貴重な資料である。

□ [居留地圖] **分類**: 日本圖・町圖(長崎)
060 **形態・員数**: 1鋪 **縦**: 40cm **横**: 76cm

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-285
通し番号: 02939
解説: 069「長崎居留場全圖」の平面圖で、住宅番号、住宅面積などは同一である。

□［琴部六ケ村圖］ **分類**: 日本圖・郡村圖（對馬）
061 **形態・員数**: 6鋪

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-269
通し番号: 02702～02704
解説: 現在の對馬の上縣郡上対馬の南部付近、對馬海峡東水道に面した舟志湾の周囲に点在している村々の地圖である。舟志村、葦見村、一重村、小鹿村、琴村、五根緒村の六村から構成されている。舟志村の地圖を考察するに、主要な山、河川、道路、部落名が記載され、かつ、33地区に分割されていて、各地区に番号がふされていることを考えると、明治初期以降の製作と推定される。隣の町村との境界線や地区の面積の画定を主要な目的とした地圖であることが窺われる。

□［口之津其他倉庫繪圖］ **分類**: 日本圖・郡村圖（肥前）
062 **形態・員数**: 9鋪

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-277
通し番号: 03004～03005
解説: 口之津は島原半島の南端に位置している。倉庫の平面圖が9種類掲載されている。

□［久原郡圖］ **分類**: 日本圖・郡村圖（肥前）
063 **形態・員数**: 11鋪

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-258
通し番号: 02984～02987
解説: 佐賀県の伊万里付近に位置する女連村、久原村、鹿見村、志多留村、伊奈村、越高村、御園村、犬ケ浦村、樫滝村、瀬田村、飼所村、合計11ケ村の繪圖である。

□［軍船繪圖類／岩瀬道郷臺場繪圖］ **分類**: 日本圖・町圖（長崎）
064 **形態・員数**: 1枚

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-39
通し番号: 02953
解説: 長崎県立長崎図書館は、このシリーズとして9種類の資料を所蔵している。今回の複製にあたっては、紙幅の関係もあり、051［軍船繪圖類／西御役所門前並波戸場繪圖］、080［軍船繪圖類／稲佐嵜臺場絵図］、081［軍船繪圖類／岩瀬道郷臺場繪圖］の3点のみしか掲載できなかった。列挙された全ての資料の詳細は、051の解説欄を参照されたい。これも見取圖のため、細部にわたって詳細に描かれていない。

□［軍船繪圖類／稲佐嵜臺場繪圖］ **分類**: 日本圖・町圖（長崎）
065 **形態・員数**: 1枚

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-39
通し番号: 02952
解説: 長崎県立長崎図書館は、このシリーズとして9種類の資料を所蔵している。今回の複製にあたっては、紙幅の関係もあり、051［軍船繪圖類／西御役所門前並波戸場繪圖］、080［軍船繪圖類／稲佐嵜臺場絵図］、081［軍船繪圖類／岩瀬道郷臺場繪圖］の3点のみしか掲載できなかった。列挙された全ての資料の詳細は、051の解説欄を参照されたい。この地圖は、稲佐嵜字船津の奥福寺福源庵に隣接して築造された稲佐嵜臺場の見取圖で、079「稲佐嵜御臺場繪圖」とほぼ同じ内容で詳細に描かれていない。

□［軍船繪圖類／西御役所門前並波戸場繪圖］ **分類**: 日本圖・町圖（長崎）
066 **形態・員数**: 1枚

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-39
通し番号: 02881
解説: 出島から橋をわたった所に位置する西御役所門前の地圖で、長崎県立長崎図書館は、このシリーズとして以下のような資料を所蔵している。今回の複製にあたっては、紙幅の関係で、この繪圖の他に、080［軍船繪圖類／稲佐嵜臺場絵図］、081［軍船繪圖類／岩瀬道郷臺場繪圖］の3点のみしか掲載できなかった。全ての資料を列挙してみよう。請求番号はいずれも3-39である。
《01》東京造御船繪圖［1832（天保3）年6月、2枚］
《02》岩瀬道郷臺場繪圖［1枚］
《03》稲佐嵜臺場繪圖［1枚］
《04》放火山御場所道筋繪圖［1枚］
《05》阿武造之船繪圖［1833（天保4）年4月、6枚］
《06》アダカ造之船平繪圖［1枚］

□［鶏知郡圖］ **分類**: 日本圖・郡村圖（對馬）
067 **形態・員数**: 12鋪

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-242
通し番号: 02966～02969
解説: 對馬列島の南東部、對馬海峡東水道に面した、現在の對馬下県郡、厳原町及び美津島町付近の村圖である。小浦村、根緒村、鶏知村、竹敷村（2枚）、昼ケ浦村、黒瀬村、箕形村、洲藻村、吹崎村、尾崎村、加志村が含まれている。

□［港内臺場圖自1號至8號］ **分類**: 日本圖・都市圖（長崎）
068 **形態・員数**: 8鋪

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-249
通し番号: 02882～02884
解説: 長崎灣内に設置されたスズレ臺場、女神臺場、太田尾臺場、白崎臺場、神崎臺場、魚見藏臺場、平戸小屋臺場、土生田焔硝藏の平面圖である。

□［御臺場十二箇所切繪圖］ **分類**: 日本圖・都市圖（長崎）
069 **形態・員数**: 12枚 **縦**: 25cm **横**: 37cm

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-73
通し番号: 02885〜02887
解説: 長崎灣内に建設された11箇所の御臺場（太田尾、神崎、高鉾［2枚］、魚見岳、女神、陰ノ尾、西泊御番所、戸町御番所、長刀岩、白崎、ススレ）の見取圖である。11箇所の各御臺場の海面からの高さ、海岸までの距離がもれなく計測されているのが大きな特色で、軍事的にみても価値のある資料と言えよう。

□［御料樺島村佐嘉領脇御崎村海境島瀬論所内済繪圖］ **分類**: 日本圖・郡村圖（肥前）
070 **形態・員数**: 1鋪 **縦**: 91cm **横**: 160cm

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-146
通し番号: 02996
解説: 106［野母半島圖（南部）］とほぼ同一の地域の地圖で、道路、濱辺、御料山、私有地、海川などが区別できるように色分けされている。ただ、佐嘉領が識別できるように作成されているのが、106［野母半島圖（南部）］と異なっている。1773（安永2）年の製作である。

□［櫻町牢屋敷圖］ **分類**: 日本圖・町圖（長崎）
071 **形態・員数**: 1鋪 **縦**: 62cm **横**: 119cm

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-246
通し番号: 02926
解説: 平面圖で、牢屋敷の詳細な見取圖である。

□［佐護郷三ケ村圖］ **分類**: 日本圖・郡村圖（對馬）
072 **形態・員数**: 3鋪

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-293-1〜3-293-3
通し番号: 02957〜02959
解説: 對馬列島の北西部、現在の對馬上県郡佐護付近の村圖である。佐護郷は、對馬海峡の西水道に流れ入る佐護川の上流に位置している。

□［佐須郷九ケ村圖］ **分類**: 日本圖・郡村圖(對馬)
073 **形態・員数**: 9鋪

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-232
通し番号: 02960～02962
解説: 對馬列島の南西部、現在の對馬下県郡佐須川付近の村圖である。佐須川の川口から約10km北に位置する今里村の地圖も掲載されている。

□［島原郡村圖］ **分類**: 日本圖・郡村圖(肥前)
074 **形態・員数**: 47鋪

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-300
通し番号: 02815～02851
解説: 019［東彼杵郡圖］、020［三根郡村圖］、021［基肄郡圖］、022［藤津郡圖］、023［藤津郡村圖］と同じ様式で製作された明治初期以降製作の地圖で、山野、林藪、人家、社寺、道路、街譯、河川、郡役所、戸長役所、境界などを表示している。調査の日月が欄外に表記されていることを鑑みるに、明治4年の廃藩置県、明治6年の地祖改正条例公布以降に製作された地圖であることが推測される。これらの地圖群と同様に、土地に番号がふされている。これは、課税方式を確定するための課程の最初の段階で行われるもであることをも勘案すると、上記の推論を証拠立てるものである。中心に雲仙岳、普賢岳、吾妻岳、九千部岳が聳えたつ島原半島全体、つまり南高来郡に所属する多くの村々を網羅した繪圖集成で、非常に貴重な資料である。南高来郡(2枚)、島原市街、島原町村、島原村(2枚)、島原、島原舊城、中古場村、安徳村、深江村、布津村、堂崎村、東有家村、西有家村、北有馬村、南有馬村、口ノ津村、加津佐村、南串山村、北串山村、千々石村、愛津村(2枚)、野井村(2枚)、山田村、守山村、三室村、古部村(2枚)、伊古村(2枚)、西郷村、神代西村、神代東村、土黒村、多比良村、湯江

□［島原市街大変前及後の図、外］ **分類**: 日本圖・郡村圖(肥前)
075 **筆者**: (写)金井俊行
形態・員数: 7鋪

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-15-2
通し番号: 03009～03011
解説: 島原市街大変前後之圖、兩肥沿岸被害地之圖、大変前島原市街之圖、島原市街大変前之圖、島原前海島岐之圖、などを収録。

□ 寛永十五年島原耶蘇教徒攻圍陣形圖 **分類**: 日本圖・郡村圖(肥前)
076 **形態・員数**: 1枚 **縦**: 57cm **横**: 80cm

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-4-2
通し番号: 03006
解説: 1638(寛永15年)、島原半島の南端、南有馬の原城にたてこもったキリシタン軍は、同年1月に総攻撃を受け、翌2月に陥落させられた。この資料は、原城を包囲した幕府軍の陣形圖である。南の海上には阿蘭陀船も2隻見え、各藩の軍隊が蟻の入る隙間もないほどに周囲を埋め尽くしている。「『太陽』(12巻8號、196ページ以降)にも転載された」との記述がある。

□［四郎ケ島旧砲臺地圖］ **分類**: 日本圖・村圖(長崎)
077 **形態・員数**: 1鋪 **縦**: 58cm **横**: 89cm

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-80
通し番号: 02954
解説: 長崎灣外の四郎ケ島に設置された砲臺13門の配置と砲撃方向を詳細に記した貴重な資料である。この砲臺から、伊王島、中ノ島、龍ノ口、高岳、南濱、舩津、香焼島、千本松、陰ノ尾の各方面への砲撃方向が描かれている。

□［大黒町砲臺圖］ **分類**: 日本圖・町圖(長崎)
078 **形態・員数**: 1鋪 **縦**: 91cm **横**: 73cm

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-290
通し番号: 02927
解説: 大黒町砲臺の平面圖で総坪数は2210と記録されている。

□ 第五大區愛津邑 **分類**: 日本圖・村圖(肥前)
079 **形態・員数**: 1鋪 **縦**: 39cm **横**: 27cm

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-252
通し番号: 03012
解説: 現在の島原市愛津町の明治初期以降の地圖で、社寺、宅地、耕地、山林、原野、藪、堤防、墓地、道路、池、沼、河川、溝などが整然と色分けされている。

□［高来郡諌早郷図／福田村、菅牟田村］ **分類**: 日本圖・郡村圖(肥前)
080 **年代**: 1862(文久2)年
形態・員数: 1鋪 **縦**: 86cm **横**: 311cm

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-1-1(21)
通し番号: 02808～02811
解説: 長崎県立長崎図書館には『高来郡諌早郷図』と題して、33枚の村繪圖が所蔵されているが、今回は、サイズの関係で「福田村、菅牟田村」の地圖のみを掲載した。いずれも、嘉永・安政・文久・元治(1848～1864年)の時代に製作された彩色地圖ばかりである。本資料は、1862(文久2)年の製作である。道路、河川、堀、田、畠、山、畔、野、社有地、寺有地、私領などが整然と色分けされた美しい彩色圖である。請求番号は、いずれも3-1である。詳細は以下の通りである。《01》井牟田村・森山村・唐比村[1851(嘉永4)年、377cmx253cm]、《02》有喜村[1864(元治1)年、207cmx272cm]、《03》有喜村・小ケ倉村・早見村[1860(安政7)年、315cmx442cm]、《04》栄田村[1862(文久2)年、132cmx170cm]、《05》小江村・犬木村・湯江村[1859(安政6)年、334cmx544cm]、《06》小川村[1864(元治1)年、205cmx257cm]、《07》小川村・栗面村・平山村[1858(安政5)年、276cmx300cm]、《08》小船越村・貝津村・土志尾村[1857(安政4)年、239cmx272cm]、《09》大渡野村・上[1863(文久3)年、377cmx253cm]、《10》大

□ 高来郡茂木村圖 **分類**: 日本圖・村圖(肥前)

081 **形態・員数**: 1鋪 **縦**: 27cm **横**: 38cm

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-204-1

通し番号: 02997

解説: 現在の長崎市茂木町の見取圖で、長崎半島の東端部の橘灣に面している。

□ 高鉾 **分類**: 日本圖・村圖(長崎)

082 **形態・員数**: 1鋪 **縦**: 41cm **横**: 54cm

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-226

通し番号: 02955

解説: 海側から見た高鉾島の繪圖で、詳細な記録は省かれている。

□ [豆■郷圖／三ケ村] **分類**: 日本圖・郡村圖(對馬)

083 **形態・員数**: 3鋪

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-243-1～3

通し番号: 02970

解説: 對馬列島の南西端、現在の對馬下県郡、豆■付近の村圖である。豆■内院村、豆■村、豆■瀬村が含まれている。

□ [出島蘭館之圖面] **分類**: 日本圖・町圖(長崎)

084 **形態・員数**: 1枚 **縦**: 20cm **横**: 27cm

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-153-1

通し番号: 02928

解説: 平面圖で、出島内の建物の配置が理解できる。

□［唐船夏冬乗筋繪圖］ **分類**: 日本圖・都市圖（長崎）
085 **形態・員数**: 2鋪

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-43-1
通し番号: 02878
解説: 1枚は、長崎から中国大陸までの唐船の航路を示した地圖で、陸地の形状、位置などはほとんど正確でない。模式圖とも言える内容で、方位が記されていて、航海の目安として活用した地圖であることを窺わせるに十分な内容である。もう1枚の地圖は、長崎を出港してから野母崎附近までの航路圖である。

□長崎小島郷圖 **分類**: 日本圖・村圖（肥前）
086 **形態・員数**: 1鋪 **縦**: 74cm **横**: 124cm

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-108-2
通し番号: 02979
解説: 茂木村境、田上入口、唐人屋敷、丸山町、寄合町の表記が見られるので、長崎市内の南東部地区の住宅地圖であろう。各住宅の境界を示す線はきめが粗く、繪も稚拙で解読に時間を要する資料である。長崎市内見取圖として作成されたものであろう。

□［仁井郷拾ケ村圖］ **分類**: 日本圖・郡村圖（對馬）
087 **形態・員数**: 10枚

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-291
通し番号: 02707～02708
解説: この地圖も前に掲載した006［石田郡十一ケ村圖］、007［琴部六ケ村圖］、008［和板部拾一ケ村］と同じパターンの地圖群である。対象となる地域は、對馬下縣郡豊玉町である。仁井は豊玉の古い名称で、天然の良港である浅茅灣から大口瀬戸を通過して對馬海峡西水道に至る起点となる地である。浅茅灣の奥まった、波浪の激しくない場所に位置する立地条件ともあいまって、對馬の交通や産業の中心地となったのであろう。

□［西彼杵郡圖］ **分類**: 日本圖・村圖（肥前）
088 **形態・員数**: 4鋪

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-252-1
通し番号: 02863
解説: 西彼杵郡図としてあるが、長崎市内圖と推測される。

□［野母椛島御備所壱枚繪圖］ **分類**: 日本圖・郡村圖(肥前)
089 **形態・員数**: 1帖 **縦**: 28cm **横**: 87cm

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-292
通し番号: 02994
解説: 長崎半島の突端に位置する野母崎とその南に位置する椛島の見取圖。粗略な圖である感は否めない。

□［野母半島圖(南部)］ **分類**: 日本圖・郡村圖(肥前)
090 **形態・員数**: 1鋪 **縦**: 78cm **横**: 107cm

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-165
通し番号: 02995
解説: 長崎半島の最南端に位置する、野母崎、椛島、脇岬を一望できる見取圖。道路、境界、御料山、私有地、海などが区別できるように色分けされていて、105［野母椛島御備所壱枚繪圖］よりも精緻な内容と言える。

□ 肥前國第三十六區松浦郡八田村圖 **分類**: 日本圖・村圖(肥前)
091 **形態・員数**: 1鋪 **縦**: 36cm **横**: 50cm

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-129-2
通し番号: 03013
解説: 現在は佐賀県伊万里市に所属している部落の明治初期以降の地圖で、耕地、社佛地、道路、境界、河川、溝、宅地、山林、原野、堤、荒地などが整然と色分けされている。

□ 東彼杵郡大村西部圖 **分類**: 日本圖・村圖(肥前)
092 **形態・員数**: 1枚 **縦**: 40cm **横**: 28cm

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-252-2
通し番号: 02990
解説: 大村灣に面した大村の西部地区の地圖である。

□［東彼杵郡圖］ **分類**: 日本圖・郡村圖(肥前)
093 **形態・員数**: 1枚 **縦**: 27cm **横**: 38cm

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-252-4
通し番号: 02763
解説: 明治初期以降の地圖で、村の境界線のみが記されている。佐世保村から三浦村まで、20の村名を掲載している。

□［東彼杵郡村圖］ **分類**: 日本圖・郡村圖(肥前)
094 **形態・員数**: 21鋪

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-265-1
通し番号: 02752～02762
解説: これらの地図群も、前に掲載したの006［石田郡十一ケ村圖］、007［琴部六ケ村圖］、008［和板部拾一ケ村］、009［仁井郷拾ケ村圖］、012［北松浦郡各村圖］、014［南松浦郡村圖拾七ケ村分／附女島男島之圖］と同一系統の地圖で、地圖の表現方法も類似しているので、年記はないが、明治初期以降の作成と推定される。ただ、「五毛を一間とする」ことが明記され、012［北松浦郡各村圖］に、比較的近い系統の地圖である。佐世保村、日宇村、早岐村、広田村、折尾瀬村、江上村、宮村、大村、竹松村、三浦村、鈴田村、福重村、松原村、上波佐見村、川棚村、彼杵村、千綿村、下波佐見村、などが含まれている。

□ 肥前島原之城圖 **分類**: 日本圖・都市圖(肥前)
095 **形態・員数**: 1鋪 **縦**: 84cm **横**: 140cm

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-162-1
通し番号: 03007～03008
解説: 島原城の平面圖。1675(延寶3)年に、「市井安昌制之」と記されている。

□［肥前国彼杵郡第十五大区水害繪圖］ **分類**: 日本圖・郡村圖(肥前)
096 **形態・員数**: 1鋪 **縦**: 61cm **横**: 43cm

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-235-1
通し番号: 02991
解説: 西彼杵半島から大村半島に流れいる時津川・長与川、長崎灣に注いでいる河川、合計三ケ所の河川の氾濫の際に、その水害地点を表示した災害地圖。

□ 肥前国高来郡古賀村絵圖 **分類**: 日本圖・村圖(肥前)
097 **形態・員数**: 2鋪 **縦**: 62cm **横**: 86cm

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-205-4
通し番号: 03001
解説: 古賀村が一望できる見取圖である。

□ 平戸水銀出所繪圖 **分類**: 日本圖・村圖(肥前)
098 **形態・員数**: 2鋪 **縦**: 89cm **横**: 63cm

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-224
通し番号: 02976～02977
解説: 平戸水銀鉱山の見取圖。

□ [藤津郡圖] **分類**: 日本圖・郡村圖(肥前)
099 **形態・員数**: 8鋪

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-239-1
通し番号: 02785～02795
解説: 下野村、下宿村、多良村、岩屋川内村、糸岐村、飯田村、大浦村、不動山村の8ケ村が含まれていて、現在の佐賀県藤津郡の東部、有明海に面した村々の地図群である。縮尺が六千分之壱と表記されていることから類推すると、おそらく明治の初期以降、それも、明治4年の廃藩置県、明治6年の地祖改正条例公布以降に製作された地圖であろう。

□ [藤津郡村圖] **分類**: 日本圖・郡村圖(肥前)
100 **形態・員数**: 9鋪

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-267
通し番号: 02796～02805
解説: 中村、森村、井手村、常廣村、吉田村、山浦村、三河内村、大枝村、八本木村の9ケ村が含まれている地図群である。現在の佐賀県藤津郡の西部、前に掲載した022[藤津郡圖]の西側に点在する村々が描かれている。縮尺が六千分之壱と表記されていることから類推すると、022[藤津郡圖]と同一の系統の地圖で、おそらく明治の初期以降、それも、明治4年の廃藩置県、明治6年の地祖改正条例公布以降に製作された地圖であろう。江戸時代の領土地圖の修正版として認識する必要があろう。

□［矢上より諫早に至る街道圖］ **分類**: 日本圖・郡村圖(肥前)
101 **形態・員数**: 1鋪 **縦**: 81cm **横**: 304cm

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-287
通し番号: 02812～02814
解説: 地形の有様がすべて描かれていないので、完成途上の地圖であると推定される。諫早から多良見を経て、長崎半島の東のつけねに位置する矢上(現在は、西彼杵郡に属する)までの街道圖である。

□［水帳惣坪圖面帳／出来鍛冶屋町］ **分類**: 日本圖・町圖(長崎)
102 **形態・員数**: 1鋪 **縦**: 54cm **横**: 280cm

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-109-2
通し番号: 02929～02930
解説: 水帳とは検地帳の意味で、地籍圖とも言われている。土地に課税する基準を作成するための土地基本台帳で、これを基にしてさまざまな政策が実行された。長崎県立長崎図書館では、他に、年代の異なる時期に作成された066・067［水帳惣坪圖面帳／万屋町］と［水帳惣坪圖面帳／東浜町］(慶応4年11月、111cmx187cm)を所蔵しているが、後者はサイズの関係で掲載することできなかった。この地圖には、1868(慶応4)年8月の年記があり、江戸時代の最後の月に製作された貴重な資料であることを物語っている。藏の正確な平面圖で、ロノ津、小濱村の表示があり、それらの地で生産された農産物を貯蔵する倉庫の一部の圖面であると推定される。

□［水帳惣坪圖面帳／万屋町］ **分類**: 日本圖・町圖(長崎)
103 **形態・員数**: 1鋪 **縦**: 71cm **横**: 232cm

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-109-2(3)
通し番号: 02931～02933
解説: 1694(元禄7)年7月の年記があり、江戸時代初期の万屋町の地籍圖である。067［水帳惣坪図面帳／万屋町］は、この地圖の以降に作成された資料であることは疑いえない。万屋町の変遷を知るための格好の文献である。

□［水帳惣坪図面帳／万屋町］ **分類**: 日本圖・町圖(長崎)
104 **形態・員数**: 1鋪 **縦**: 69cm **横**: 226cm

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-175-2
通し番号: 02934～02935
解説: 066［水帳惣坪図面帳／万屋町］と同一地区の繪圖面である。時代が経つに従って、町並みそのものに大きな変化はないものの、居住者が大幅に入れ替わっているのが目だっている。都市の住民構成の変容を辿るうえでの貴重な資料である。

□［南松浦郡村圖拾七ケ村分／附女島男島之圖］ **分類**: 日本圖・郡村圖（五島列島）
105 **形態・員数**: 24鋪

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-193-2
通し番号: 02730～02747
解説: 五島列島の南松浦郡に属する野崎島、中通島、若松島、奈留島、小値賀島、久賀島、福江島、及び、これらの島々の周辺の小島、さらに、五島列島のはるか南に位置する男女群島（男島、女島）の、見取圖24鋪が収録されている。これらの地図群も、前に掲載したの006［石田郡十一ケ村圖］、007［琴部六ケ村圖］、008［和板部拾一ケ村］、009［仁井郷拾ケ村圖］、012［北松浦郡各村圖］と同一系統の地圖で、地圖の表現方法も類似しているので、年記はないが、明治初期以降の作成と推定される。縮尺は久賀島のみが1万2千分の1と表記されている。

□［三根郡村圖］ **分類**: 日本圖・郡村圖（肥前）
106 **形態・員数**: 10鋪

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-244
通し番号: 02764～02772
解説: 福岡県の筑後地方との境界に位置する佐賀県三根郡（現在は佐賀県三養基郡の南部地方に相当する）の村地圖を収載。江迎村、坊所村、西島村、天建寺村、寄人村、坂口村、東津村、前牟田村、堤村、市武村の10村が記載されている。原圖は彩色圖。019［東彼杵郡圖］と同じ様式で製作された明治初期以降の地図で、田畑、宅地、社寺墓地、江堀溝、道路、藪草生地、林芦生地、飛入地、堤、字境などを表示している。大區、小區が具体的に記載された珍しい地圖である。

□［三根部拾ケ村圖］ **分類**: 日本圖・郡村圖（對馬）
107 **形態・員数**: 10鋪

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-289
通し番号: 02963～02965
解説: 對馬列島の中央部、現在の對馬下県郡北部付近の村圖である。三根村、津柳村、青海村、木坂村、狩尾村、賀佐村、吉田村、櫛村、佐賀村、志多賀村の10村が記載されている。原圖は彩色圖。

□［与良郷拾七ケ村圖］ **分類**: 日本圖・郡村圖（對馬）
108 **形態・員数**: 17鋪

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-231-1
通し番号: 02971～02974
解説: 對馬列島の南東端、現在の對馬下県郡、与良内院付近の村圖である。内山村、安神村、尾浦村、久田村、久和村、与良内院村、大船越村、芦ケ浦村、小船越村、濃部村、緒方村、久須保村、大山村、犬吠村、島山村、鴨居瀬村、南室村が含まれている。原圖は彩色されていて美しい。

□［和板部拾一ケ村圖］ **分類**: 日本圖・郡村圖(對馬)
109 **形態・員数**: 11鋪

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-294
通し番号: **02705～02706**
解説: 前掲の006［石田郡十一ケ村圖］、007［琴部六ケ村圖］と同じ様式で製作された村圖である。該当する地域は、現在の對馬下縣郡豊玉町の東部、對馬海峡東水道に面した大漁灣附近に点在する村々である。007［琴部六ケ村圖］よりはやや南に位置する地域が作圖の対象である。曽村、仁位村、横浦村、佐志賀村、糸瀬村、和板村、千尋藻村、賀谷村、嵯峨村、貝鮒村、■川村の十一の村々で構成されている。

□ Firando **分類**: 日本圖・村圖(肥前)
110 **形態・員数**: 1鋪 **縦**: 55cm **横**: 79cm

所蔵機関: 長崎県立長崎図書館 **請求番号**: 3-142-2
通し番号: **02978**
解説: 平戸港古図で、1621年の製作と表記されている。オランダ商館が平戸に存在していた時代の地圖である。平戸灣の周囲に、人家やオランダ商館らしきものが見られるが、地名や建物名の表示がないために、正確に特定できない。おそらく、オランダの書物から模写した地圖であろう。

□ 西築町圖面 **分類**: 日本圖・町圖(長崎)
111 **形態・員数**: 写本 1鋪紙本着色 **縦**: 65.5cm **横**: 371.0cm

所蔵機関: 長崎市立博物館 **請求番号**: 図83
通し番号: **02936～02937**
解説: 1868(慶応4)年8月改の年記がある西築町の水帳、つまり土地台帳である。租税の支払方法、免除などについて記載された注目すべき資料である。065［水帳惣坪圖面帳／出来鍛冶屋町］、066・067［水帳惣坪圖面帳／万屋町］、［水帳惣坪圖面帳／東浜町］(慶応4年11月、111cmx187cm)と同一系統の地圖である。

□［本古川町繪圖］ **分類**: 日本圖・町圖(長崎)
112 **形態・員数**: 写本 1鋪紙本着色 **縦**: 74cm **横**: 232cm

所蔵機関: 長崎市立博物館 **請求番号**: 図82
通し番号: **02944～02945**
解説: 065［水帳惣坪圖面帳／出来鍛冶屋町］、066・067［水帳惣坪圖面帳／万屋町］、［水帳惣坪圖面帳／東浜町］(慶応4年11月、111cmx187cm)、068「西築町圖面」、074［本古川町繪圖］、075［伊勢町繪圖］、076［丸山町古圖］、077［今博多町繪圖］、078「平戸町古圖」は、いずれも同一系統の地圖で、長崎市内の各町の水帳(土地台帳)である。門番所が置かれていて、道路を挟んで人家が整然と蒲鉾型に並んでいて、当時の典型的な住宅街であることを示している。

□［伊勢町繪圖］ **分類**: 日本圖・町圖（長崎）
113 **形態・員数**: 写本 1鋪紙本墨画 **縦**: 39.5cm **横**: 143.0cm

所蔵機関: 長崎市立博物館 **請求番号**: 図115
通し番号: 02946
解説: 065［水帳惣坪圖面帳／出来鍛冶屋町］、066・067［水帳惣坪圖面帳／万屋町］、［水帳惣坪圖面帳／東浜町］（慶応4年11月、111cmx187cm）、068「西築町圖面」、074［本古川町繪圖］、075［伊勢町繪圖］、076［丸山町古圖］、077［今博多町繪圖］、078「平戸町古圖」は、いずれも同一系統の地圖で、長崎市内の各町の水帳（土地台帳）である。これも、074［本古川町繪圖］と同じく、当時の住宅街の地圖である。

□［丸山町古圖］ **分類**: 日本圖・町圖（長崎）
114 **筆者**: 勝とう平雄
形態・員数: 写本 1鋪紙本着色 **縦**: 55.5cm **横**: 79.5cm

所蔵機関: 長崎市立博物館 **請求番号**: 図96
通し番号: 02947
解説: 065［水帳惣坪圖面帳／出来鍛冶屋町］、066・067［水帳惣坪圖面帳／万屋町］、［水帳惣坪圖面帳／東浜町］（慶応4年11月、111cmx187cm）、068「西築町圖面」、074［本古川町繪圖］、075［伊勢町繪圖］、076［丸山町古圖］、077［今博多町繪圖］、078「平戸町古圖」は、いずれも同一系統の地圖で、長崎市内の各町の水帳（土地台帳）である。丸山町は遊郭町で、唐人屋敷の南部に位置する。遊郭内の各店にも等級があり、揚ケ屋、遊女代拾五匁の店、酒肴・遊女代金壱歩の店、酒肴・遊女代金三朱の店、乙名宅、人家などが整然と色分けされていて、非常に貴重な資料である。

□［今博多町繪圖］ **分類**: 日本圖・町圖（長崎）
115 **形態・員数**: 写本 1鋪紙本着色 **縦**: 50cm **横**: 147.5cm

所蔵機関: 長崎市立博物館 **請求番号**: 図133
通し番号: 02948
解説: 065［水帳惣坪圖面帳／出来鍛冶屋町］、066・067［水帳惣坪圖面帳／万屋町］、［水帳惣坪圖面帳／東浜町］（慶応4年11月、111cmx187cm）、068「西築町圖面」、074［本古川町繪圖］、075［伊勢町繪圖］、076［丸山町古圖］、077［今博多町繪圖］、078「平戸町古圖」は、いずれも同一系統の地圖で、長崎市内の各町の水帳（土地台帳）である。この地圖も、074［本古川町繪圖］、075［伊勢町繪圖］、078「平戸町古圖」と同じく、当時の住宅街の地圖である。

□ 平戸町古圖 **分類**: 日本圖・町圖（長崎）
116 **形態・員数**: 写本 1鋪紙本着色 **縦**: 26cm **横**: 241.3cm

所蔵機関: 長崎市立博物館 **請求番号**: 図10
通し番号: 02949～02950
解説: 065［水帳惣坪圖面帳／出来鍛冶屋町］、066・067［水帳惣坪圖面帳／万屋町］、［水帳惣坪圖面帳／東浜町］（慶応4年11月、111cmx187cm）、068「西築町圖面」、074［本古川町繪圖］、075［伊勢町繪圖］、076［丸山町古圖］、077［今博多町繪圖］、078「平戸町古圖」は、いずれも同一系統の地圖で、長崎市内の各町の水帳（土地台帳）である。この地圖も、074［本古川町繪圖］、075［伊勢町繪圖］、077［今博多町繪圖］と同じく、当時の住宅街の地圖である。

□［天草郡中之圖］ **分類**：日本圖・郡村圖（肥後）
117 **形態・員数**：写本 1鋪紙本着色 **縦**：75.5cm **横**：91.3cm

所蔵機関：長崎市立博物館 **請求番号**：図80
通し番号：**03014**
解説：天草諸島の上島及び下島、薩摩長島が一望できる見取圖で、地名も詳細に記載され、山脈や海岸線の形状も把握可能で、美しい彩色が施されている。

□［弘化年間砲臺築造現場之圖］ **分類**：日本圖・都市圖（長崎）
118 **筆者**：河野雪巖模寫
形態・員数：1鋪

所蔵機関：国立公文書館 **請求番号**：177-264
通し番号：**02890**
解説：長崎港から出帆して南に位置する長崎灣の西泊御番所、戸町御番所附近から神ノ島、香焼島、伊王島近辺に至る航路が示されている。各島と本土との距離も少なからず記載されている。地圖左下隅を見ると、この地圖は、「外務省に所属する河野雪巖が写した地圖で、弘化年間（1844～1847年）に、砲臺築造を記念して、鍋島公から宇和島公に贈られた」と明記されている。西泊御番所、戸町御番所、太田尾、女神、白崎、神崎、高鉾、陰ノ尾、長刀岩の9ケ所に砲臺を示す記号が表示されている。084「神之島略圖」、109「伊王島略圖」と同一系統の圖である。

□神之島略圖 **分類**：日本圖・村圖（長崎）
119 **筆者**：河野雪巖模寫
形態・員数：1鋪

所蔵機関：国立公文書館 **請求番号**：177-79
通し番号：**02956**
解説：056［弘化年間砲臺築造現場之圖］、109「伊王島略圖」と同一系統の圖で、河野雪巖により模写されている。地圖右上の表記も056と同一で、この地圖は、「外務省に所属する河野雪巖が写した地圖で、弘化年間（1844～1847年）に、砲臺築造を記念して、鍋島公から宇和島公に贈られた」と明記されている。長崎灣外に浮かぶ、四郎嶋、神之島の砲臺の位置を示した地圖で、上空から俯瞰しているために、両島の形状、地形などが用意に把握できる。これらの砲臺の形状などについても、詳細に記載されている。

□伊王島略圖 **分類**：日本圖・村圖（肥前）
120 **筆者**：河野雪巖模寫
形態・員数：1鋪

所蔵機関：国立公文書館 **請求番号**：177-132
通し番号：**02998**
解説：056［弘化年間砲臺築造現場之圖］、084「神之島略圖」と同一系統の圖である。弘化年間（1844～1847年）における砲臺築造圖である。砲臺の形状などについても、詳細に記載されている。

近世檜圖地圖資料集成第Ⅰ期
The Collected Materials of Maps and Pictures Produced in Yedo Era----First Series
（第 12 巻）　對馬・壹岐・肥前・長崎　解題目録
［12th Volume : Tsushima, Iki, Hizen, Nagasaki ］　(Descriptive Catalogue)
近世檜圖地圖資料研究会編・解説

2014 年 1 月 31 日
編　者　近世絵図地図資料研究会編
解説者　本田　　豊
発　行　株式会社科学書院
　　〒 174-0056　東京都板橋区志村 1-35-2-902　TEL.03-3966-8600　FAX.03-3966-8638
発行者　加藤　敏雄
発売元　霞ヶ関出版株式会社
　　〒 174-0056　東京都板橋区志村 1-35-2-902　TEL.03-3966-8600　FAX.03-3966-8638
各巻本体価格 250,000 円、揃本体価格（全 12 巻）3,000,000 円
ISBN978-4-7603-0161-5 C3325 ￥250000E